



# こころの雑記帳



目次

ふるさとは遠きにありて思ふもの	1
つみびとの歌（中原中也の詩）	2
地山謙	3
ロバート・フロスト	4
言葉	6
beautiful memories should stay beautiful	7
I know who I am	9
子供の頃、声が出なくなったこと。	10
ガンジー	11
高校受験	12
服部半蔵と松平信康	13
思い込みと、「かんごくさん」	14
年寄り	15
龍神様	16
念	16
クールなルーク	17
ロイヤルゼリーとスイカ	18
とある先輩	20
ランブル・フィッシュ	22

年取った親に苛つく	23
後悔だけが人生だ	24
はちみつのだ餡	25
念仏	26
アンブローズ・ピアス	27
アウトサイダー	28
大百足	29
明智光秀	30
萩原朔太郎・・・詩の原理	31
武田信玄	32
ドロリッチを飲んでいた男	32
ランダムハウス英和大辞典	34
清水宗治、湖上の切腹	35
Each Time	36
韓国広足	38
アルチザン	39
生命の実相	40
Burn your bridge behind YOU	41
日本語大辞典	43
リンドバーグ大佐とブルムリー中尉	44
心だに誠の道にかないなば、祈らずとても神や護らん	45
身を捨ててこそ、浮かぶ瀬もあれ	46
MENSA	47

新選組	47
ジャン・クリストフ	48
シラー	49
恐怖心と、足利尊氏	50
項羽と劉邦	51
毒親について	52
paricide	52
仲よきことは、美しき哉	53
宇宙元旦	53
河合継之助	54
巧言令色鮮し仁	55
畑仕事	55
トイレ掃除	57
親思う心に勝る親心、今日の良き日を如何に過ごさん	58
従順	59
死霊	59
睡眠	60
大西巨人	61
合気術の男	61
命の初夜	63
19・00の男	64
とある昔話	65
車検	66

クラス会	67
領解文	68
君子の交わりは、淡き水のごとし	69
剛毅木訥仁に近し	70
文学乞食	71
火花	72
リーマン予想	72
塩焼きそば	73
人が何をしたか・・・ではなく・・・。	74
芽が出た	75
iOSアップデート	75
裏切り	76
成功は常に苦辛の日に在り、敗事は多く得意の時に因る	77
悪人正機	77
夢	78
従順	79
最近、夢見がいい	80
仕事と恋愛	81
トップファンバッジ	82
子曰く、君子は器ならず。(渋沢先生の著書より引用。)	83
口は災いのもと	83
散る桜、残る桜も、散る桜	84
拾った50円。	85

初任給	87
二宮金次郎さん	89
最後のドライブ	90
若者のままの、じいちゃん	91
アラバマ物語	93
ブラジルから来た少年	94
カーネーション	95
猜疑心	96
護国神社	98
ゴールデンウィーク	100
ホームボーイ	101
エリック・クラプトンの絵葉書	103
ヒョウ	105
俺たちの旅	107
ダンパ	109
ジェームズ・スチュワートとケーリー・グラント	111
レイと幼い兄妹	112
北斗無双	114
聴きながら	114
デボラ・ウインガー	116
小さなこと	118
生命を捨てるものは、かえって生命を得	118
面にあらわれ、背にあふる	120

自製の徳	121
相棒	123
ギンレイホール	124
シモーヌ・ヴェイユ	125
風が雲をよび、雲が雨を降らす	128
ビーバー	131
弁護士になった男	134
県庁マンになった男	137
マラソン好きだった男	140
ペンギンと呼ばれた男	142
他大から来ていた女子学生	143
田舎そば	147
畑仕事	149
曾祖父	150
びんた	152
立ち向かう人の心は鏡なり	154
祖母の一番長い日	155
自己弁解をやめよう	158
とある後輩	159
ムーンライト・シャドウと・ガロア	161
最後まで耐え忍ぶものは救われる	163
親友	164
芥川龍之介の詩集	165

龍神様	166
汝の信仰、汝を癒せり、立ちて歩め	168
梅干し番茶	170
忙中閑あり	171
恍惚感を警戒せよ	172
ガロアとシュバリエ、そして、アーベルとクラルレ	174
バスガイドさんだった女性	176
帝大卒のクラスメイト	176
水島の戦い	178
チャーチルの・・・本当の敵	180
コンピュータの間違いではなく・・・人間の間違い	182
上司の灰皿	184
ランニングが好きだった先輩	186
おとぼけ	188
小さな泥棒	192
バー・フライ	194
マイケル・J・フォックス	195
バケツ	197
子熊	199
南東から来た男	202
オールドリッチ・リップスキー	204
マッチ工場の女	206
ダーク・スター	208

花火大会	209
祖母の弟	211
星新一先生	212
不思議惑星キンザザ	213
血のつながりよりも、愛の深さを	215
チョコどん	216
アメリカ	217
大阪太郎	219
We Are The World	221
自分が何をして、何をしなかったか	225
お客様は神様です	226
山中鹿之助	228
団しんやさん	229
好きなものにこそ、節度を	231
時計じかけのオレンジ	232
気合	233
力の出し惜しみをしない	235
死にゆく者への祈り	237
二十歳を過ぎたら皆同じ	240
水分を摂らなかつた男	241
ジェレミー・ブレット	243
High Noon 真昼の決闘	246
鬼婆	249

ミニコミ紙の男	251
ベルリン天使の詩	252
エル・トポ	253
ニュー・シネマ・パラダイス	255
スカイラインの女性	258
心頭滅却すれば火もまた涼し	260
三界唯心	261
真夏のゴミ山	262
カクテル	263
ロシアとウクライナ	264
スナックバー・ブタベスト	266
ピーター・グリーンナウエイ	267
デリカテッセン	269
左翼思想と唯物論	270
シザーハンズ	272
クライ・ベイビー	274
キューブリック	275
タルコフスキー	277
トヨタからの手紙	279
カイル・マクラクラン	280
チェビー・チェイス	281
マネキン	282
ボディガード	284

アレックス・コックス	287
団子	289
ビッグ	291
はだしのゲン	294
7月4日に生まれて	297

### ふるさとは遠きにありて思ふもの

室生犀星は詠っている。

ふるさとは遠きにありて思ふもの

そして悲しくうたふもの

よしや

うらぶれて異土の乞食となるとても

帰るところにあるまじや

.....

私は都会に出たが、仕事をやめて、実家に帰った。

そして、親に言われた・・・、

「・・・仕事辞めて帰ってくるなんてみっともないから、火山の噴火口に飛び込め・・・。」

.....

その時に、やっとわかった・・・。

犀星の詩の意味が・・・。

そんな思いがある・・・。

勿論、噴火口には飛び込まなかったが・・・、

あの時、私の精神は死んだ・・・。

まあ・・・、

今となっては、どうでもいい話ではあるが・・・。

## つみびとの歌（中原中也の詩）

中原中也は、「つみびとの歌」という詩を遺している。

「わが生は、下手な植木師らに

あまりに夙く、手を入れられた悲しさよ！」

で始まり・・・。

「ひとにむかつては心弱く、諂ひがちに、かくて

われにもない、愚事のかぎりを仕出来してしまふ。」

と結ばれている。

この詩を読んで、愕然とした。

まるで、私自身のこと書かれてあるかの様に思えたのである。

つみびと、とは、誰のことを言っているのでしょうか・・・？

中原自身のことであろうか・・・？

それとも、親のことであろうか・・・？

下手な植木師とは・・・？

やはり、親のことか・・・？

それとも、学校・・・？

社会であろうか・・・？

色んなことを考えた。

私は、中原のことに詳しくない上に、ド素人なので、よくわからない・・・。

しかしながら・・・、

現代日本では、この、「つみびとの歌」に共感する人が多いのではなからうか・・・？

そう感じるのは、私だけではあるまい・・・。

## 地山謙

安岡先生の著書によれば・・・、

易経に・・・、

地山謙という卦があるそうだ・・・。

これは、謙虚であることは、全てにおいて、吉である、という意味のようだ・・・。

易経の卦の中でも、全てにおいて吉、というのは・・・、

地山謙だけだそうだ・・・。

ああ・・・、

謙虚というものは、大切なのであるなあ・・・。

私は、ついつい傲慢になってしまう・・・。

もう少し、謙虚になろう・・・。

謙虚利中という言葉もある・・・。

謙虚であれば、自ずと内側から輝くという意味である・・・。

謙虚利中・積善・改過に励もう・・・。

## ロバート・フロスト

コロナ禍の最中、アメリカに住んでいる友人が、とあるネット動画を教えてくれた。

それは名言集の動画であり、その中に、ロバート・フロストの、

The Road Not Taken の、最後の一節が引用されていた・・・。

I shall be telling this with a sigh

Somewhere ages and ages hence

Two roads diverged in a wood, and I

I took the one less traveled by,

And that has made all the difference.

それ以来・・・、

私はこの一節を、時折読み返している・・・。

苦しい時・・・、

誰かを憎んでいる時・・・、

この一節を読むと・・・、

何だか心がスッキリする・・・。

ロバート・フロストが・・・、

ため息混じりに・・・、

喜びを語ったのか・・・？

それとも・・・、

後悔の念を語ったのか・・・？

それはわからないが・・・。

しかしながら・・・、

私は思う・・・、

後悔のない人生はないし・・・、

喜びのない人生もない・・・。

後悔も喜びも・・・、

人生にはつきものなのだ・・・。

アメリカの国民的詩人・ロバート・フロストに、感謝と敬意を表する・・・。

## 言葉

言葉には、とんでもない力がある。

ペンは剣よりも強し・・・、

言霊・・・、

などと言われるように、魔力を持っている・・・。

心して使わなければ、時に人を深く傷つける・・・。

私の場合・・・、

弱さと傲慢さが原因で、間違った言葉を使ってしまう・・・。

或いは・・・、

感情に流されて、言葉を使う・・・。

そのために、人を深く傷つけていることも・・・。

人を傷つけるだけではない・・・。

自分自身をも傷つけてしまう・・・。

言葉は・・・、

諸刃の剣なのだから・・・。

## beautiful memories should stay beautiful

学生時代、ミッキーロークの熱烈なファンだった。

とりわけ好きだったのは、「エンゼル・ハート」である。

映画館に、三回観に行った。

そして、ウイリアム・ヒョーツバーグの原作「墮ちる天使」も読んだ。

更には、ビデオデッキを二台持っている友人に頼んで、レンタルビデオをダビングしてもらった。そのビデオは、文字通り、擦り切れるほど観た。

何十回も……、

いや……、

何百回も……。

お陰で、当時は、セリフをほとんど憶えてしまっていた。

その中で、一番好きだったフレーズは……、

ミッキーロークが、オープンリールのレコーダーに吹き込んでいたセリフの一部……、

「……secret love should stay secret……。」

である……。

今でも時々思い出す……。

秘密の恋は、秘密のままがいいのである。

そして私は思う……、

beautiful memories should stay beautiful……、

だと……。

美しい思い出は、美しい思い出のままのほうがいい……。

美しい思い出を訪ねて行って、幻滅するよりは……、

美しい思い出は、美しい思い出のままにして・・・、

時々思い出すにとどめておくほうが、ロマンティックなのではあるまいか・・・？

そう思うのは私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

## I know who I am

I know who I am・・・。

映画「エンゼル・ハート」の中での、ミッキー・ロークのセリフである・・・。

ラスト近くで・・・、

ロバート・デ・ニーロ演ずる、ルイス・サイファー・・・、

いや・・・、

ルシファーに向かって、ミッキー・ロークが叫ぶ言葉である・・・。

学生時代は・・・、

このセリフが、妙に気に入っていたものである・・・。

自分が誰だかわかってる・・・。

そういう意味であるが・・・、

自分自身、本当に自分が何者であるのか、わかっているのでしょうか・・・？

私は、年を取れば取るほど・・・、

自分が何者であるのか、わからなくなってしまふ・・・。

そう思うのは私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

## 子供の頃、声が出なくなったこと。

小学生の頃、声が出なくなったことがあった。

色んな病院に連れて行かれて、治療らしきものを受けた・・・。

しかしながら・・・、

ちっとも良くならなかった・・・。

今思えば・・・、

声が出なくなったのは、ストレスが原因であったのであろう・・・。

親から・・・、

勉強しろ、勉強しろ・・・、

などと言われていたから・・・。

だが・・・、

本当のところはよくわからない・・・。

しばらくしたら・・・、

自然と、声が出るようになった・・・。

それにしても・・・、

世の中には・・・、

馬鹿親が多いものであるなあ・・・。

## ガンジー・・・。

大学受験の前日の夜・・・、

眠れなかった・・・。

仕方なかったので・・・、

ホテルの部屋のテレビをつけた。

すると・・・、

ベン・キングスレー主演の映画「ガンジー」が放送されていた……。

とりあえず観た……。

内容は忘れた……。

そして、見終わったら眠くなってきたので、ベッドに入った……。

次の日、受験に臨んだ……。

とりあえず、何とか合格した……。

どうでもいい話ではあるが……、

受験シーズンになると……、

「ガンジー」を思い出す……。

そして……、

眠られないなら、無理して眠らずに……、

テレビでも観たほうがいい……。

何となくそんなことを考える……。

## 高校受験

高校受験の直前、勉強する気になれなかった。

それで、小説を読み始めた・・・。

平井和正先生の「幻魔大戦」である・・・。

面白かったので、14巻まで読んだ・・・。

そこで、高校受験を迎えた・・・。

何とか、合格した・・・。

受験が終わると・・・、

どういう訳か、「幻魔大戦」を読まなくなった・・・。

不思議なものである・・・。

私には・・・、

受験前になると、小説を読みたくなるという性癖があった・・・。

どうでもいいことではあるが・・・、

受験シーズンになると思い出す・・・。

## 服部半蔵と松平信康

中学時代、「歴史読本」で読んだ。

家康の嫡男、信康は切腹させられた。

信長に、武田との内通を疑われたのである。

介錯するはずだった、半蔵は、涙涙で介錯できなかったらしい。

同行したもう一人が、介錯した。

何とも悲しい出来事である・・・、

中学生の頃、そう思った・・・。

歴史とは・・・、

奥が深い分・・・、

物悲しいものであるなあ・・・。

思い込みと、「かんごくさん」・・・。

女性看護師さんのことを・・・、

昔は・・・、

看護婦さんと呼んでいた・・・。

ところが、である・・・。

私は幼い頃・・・、

看護婦さんのことを・・・、

「かんごくさん」だと思い込んでいた・・・。

かんごくさん・・・、

監獄さん・・・、

なんか、牢名主みたいで、恐ろしい気もする・・・。

いやはや・・・、

幼い頃の思い込みとは・・・、

滑稽でもあり・・・、

恐ろしいものでもあるなあ・・・。

## 年寄りは・・・。

年寄りは、どうも好きになれん。

親が、毒親だからか。

子供の頃から・・・、

言葉の暴力を受けてきた・・・。

心の傷は深い・・・。

体の傷は癒えるが・・・、

心の傷は・・・、

一生消えないだろう・・・。

馬鹿親は・・・、

相変わらずだ。

バカは死ななきゃ治らない・・・、

という言葉は・・・、

本当のことなのであろうなあ・・・。

## 龍神様

龍神様にお参りに行った。

これから良くなればいいんだがなあ・・・。

どこか遠くへ行きたいなあ・・・。

## 念

キリストは・・・、

芥子粒ほどの信念があれば・・・、

山を動かすこともできる・・・、

と言ったらしい・・・。

また・・・、

のどが渴いて・・・、

無花果の実を食べようと思ったら・・・、

実がなかったらしい・・・、

そこで、キリストは怒って・・・、

もう、実をつけるな・・・、

と言ったということだ・・・。

すると・・・、

無花果は、たちまち枯れてしまった・・・。

念というものは、すごい力を持つと同時に・・・、

恐ろしいものであるなあ・・・。

クールなルーク・・・。

「暴力脱獄」のなかで・・・、

ポール・ニューマンが演じた、ルーク・・・。

クールなルークとして、獄中で人気があった・・・。

しかしながら・・・、

ジョージ・ケネディの裏切りによって・・・、

射殺されてしまった・・・。

映画としては面白かったが・・・、

後味が・・・。

裏切るのは・・・、

・・・。

ロイヤルゼリーとスイカ・・・。

十年以上前に、健康食品販売会社に勤めていた。

年配の女性社長が経営する、こじんまりとした会社であった。

社長はパワフルで、一瓶2万円もするロイヤルゼリーを、大量に売りさばいておられた……。

私は本当に感心していたものである。

彼女の愛車は、トヨタのクラウン……、

お金持ちの代名詞である……。

ある夏の日、海辺の代理店さんの依頼で、海に面した別荘まで、社長と二人で、商品を届けに行った。

無事に仕事も終わり、別荘でスイカを食べた。

そして、談笑しながら、スイカの種を縁側から外に吐き出していた……。

すると……、

驚くべきものを発見した……。

スイカの種を吐き出した、まさにその場所に、小ぶりながら、スイカが二三個になっていた……。

聞くところによれば……、

前の年の夏に、スイカの種を吐き捨てたところに、スイカが育っていたのである……。

本当に驚いた。

お金に縁のある人は、吐き捨てた種から芽が出て、スイカが育つのであるなあ……、

……と……妙に感心したものである……。

最近、その社長とは会っていない……。

計算すると……、

90代になっているはずである……。

元気であればいいのだがなあ……。

まあ……、

あの、パワフルな社長のことであるから……、

今でも、クラウンを乗り回して、ロイヤルゼリーを売りさばっていることであろう……。

少し暑くなったので……、

そんなことを思い出した……。

## とある先輩

学生時代、ある先輩がいた。

私は日頃から、その先輩を尊敬していた。

ある夏の日、サークルの合宿で、千葉の海辺に行った。

初日は楽しかった……。

しかしながら……、

いかんせん、呑み過ぎた……。

そして、二日目の夜……、

またしても飲み会……、

正直言って、もう酒は飲みたくなかった・・・。

しかし、である・・・、

時はバブル時代・・・、

一気飲みが、日常的に行われていた・・・。

例によって、私も・・・、

「・・・おい、次はお前一気やれよ・・・！」

・・・と言われた・・・。

私は苛ついて・・・、

今まさに、グラスを投げつけようと思っていた・・・。

すると・・・、

あの先輩が、私の手からグラスをとって・・・、

「ようし、俺が代わりに一気やるぞー・・・！」

と言った途端に、グラスのビールを飲み干してくれた・・・。

私の気持ちを察してくれたのであろう・・・。

私は泣きそうになった・・・。

先輩、ありがとうございます・・・、と・・・。

それから、随分と長い年月が過ぎ去った・・・。

あの先輩は、一流企業に就職して・・・、

おまけに、弁護士資格をも取得して、大活躍であるそうだ・・・。

ああ・・・、

やはり・・・、

人間として立派な人は、成功するものであるのだなあ・・・。

今でも時々思い出す・・・、

私の代わりに、一気飲みしてくれた先輩のことを・・・。

## ランブル・フィッシュ

高校時代・・・、

「ランブル・フィッシュ」という映画を観た。

「フットルース」との二本立てで、「ランブル・フィッシュ」はおまけというふうに使っていた・・・。

しかしながら・・・、

「ランブル・フィッシュ」のほうが、遥かに面白かった・・・。

主演のマット・デイロン、ヒロインのダイアン・レインもよかったが・・・、

一番かっこよかったのは・・・、

ミッキー・ロークだった・・・。

マット・デイロン演ずるラストイー・ジェームスの兄、バイクボーイを演じていたのが、ミッキー・ロー  
クだった……。

私は、一発でファンになった……、

というよりも、恋に落ちた……ミッキー・ロークに……。

それから……、

ミッキー・ロークの出演作を観まくった……。

そんな、思い出深い映画である……。

また、原書のペーパーバックまで買って読んだ……。

初めて買った、洋書のペーパーバックである……。

どの程度読んだのかは忘れたが、辞書を引きながら一生懸命読んだ……。

その上……、

「ランブル・フィッシュ」はコッポラ監督の作品であり……、

デニス・ホッパーや、ブレイクする前の、ラリー・フィッシュバーンなども出演している……。

とんでもない名作である……。

ああ……、

また、「ランブル・フィッシュ」を観たくなった。

そして……、

原作も、また読みたくなったなあ……。

急に暖かくなった、3月初めの夜に……、

そんなことを考えた・・・。

## 年取った親に苛つく

年取った親に苛つく。

馬鹿親もいいところだ。

毒親か・・・。

暴言吐きまくり・・・、

敵愾心をむき出しにする・・・。

我ながら・・・、

情けなくなる・・・。

親と呼べた代物ではない・・・。

何らかの、醜い塊に過ぎない・・・。

早く縁を切って・・・、

新天地で・・・、

幸せに暮らしたいものである・・・。

## 後悔だけが人生だ

花に嵐の例えもあるさ、さよならだけが人生だ。

と、訳したのは、井伏鱒二だったであろうか……。

原文が何なのかは、わからない。

私は思う……。

花に嵐の例えもあるさ、後悔だけが人生だ……、

……と……。

人生とは……、

後悔することなのではあるまいか……？

そう思うのは、私だけであろうか……？

いや……、

そんなことはあるまい……。

## はちみつのだ餡

コンビニで・・・、

何となく、はちみつのだ餡を買った・・・。

そして・・・、

食べてみた・・・。

すると・・・、

リラックスして・・・、

ストレスが抜けたような気がした・・・。

不思議であるなあ・・・。

のだ餡には・・・、

ハーブエキスが入っている・・・。

ハーブには、リラックス効果がある・・・。

だからであろうか・・・？

ストレスを感じている人は・・・、

のだ餡を食べてみたらどうであろうか・・・？

何だかそんなことを考えた・・・。

## 念仏

子供の頃から・・・、

毎朝毎晩・・・、

仏壇の前で・・・、

念仏を唱えている・・・。

まあ・・・、

空念仏ではあるが・・・。

そして・・・、

十年以上前から・・・、

真夜中に・・・、

座禅を組んで・・・、

般若心経を唱えている・・・。

何だか、心が落ち着くのである・・・。

念仏とは・・・、

不思議な功德があるものであるなあ・・・。

## アンブローズ・ビアス

芥川龍之介は・・・、

アンブローズ・ビアスのことを・・・、

短編小説の名手と評している・・・。

確かに・・・、

ビアスの小説は面白い・・・。

しかしながら・・・、

殆どが、怪奇小説である・・・。

あとは・・・、

悪魔の辞典・・・、

悪魔の寓話・・・。

南北戦争に従軍したためであろうか・・・？

学生時代はよく読んだが・・・。

もう読む気はしない・・・。

小林秀雄が言っているように・・・、

読書傾向は変わるものである・・・。

## アウトサイダー

高校時代・・・、

「アウトサイダー」という映画を観た・・・。

「ランブル・フィッシュ」と同じ、S・E・ヒントンの原作である・・・。

当時流行していた、YAアダルトものである・・・。

アダルトと言っても、エロビデオではなく、アメリカの青春スターの映画である・・・。

パトリック・スウェイジ・・・、

ロブ・ロウ・・・、

トーマス・ハウエル・・・、

ラルフ・マッチオ・・・、

マット・ディロン・・・、

エミリオ・エステベス・・・、

等等・・・、

そうそうたる顔ぶれであった・・・。

ラストは、ハッピーエンドではなく、物悲しかった・・・。

トーマスハウエルが「風と共に去りぬ」を読んでいるシーンが、妙に印象に残っている・・・。

また映画を観たいなあ・・・。

そして、原作も読んでみようか・・・。

## 大百足

確か、今昔物語に書いてあったと思うが・・・、

小学生時代の記憶なので、定かではない・・・。

何が書いてあったかというと・・・、

頼光四天王の一人、依藤太が、まあ藤原秀郷のことであるが・・・、

大百足を退治した話が書いてあった・・・。

弓で射ても、なかなか倒せなかった・・・。

そこで、口に矢の先端を咥え、唾をたっぷりつけて、弓を射たら、倒せたということだった・・・。

百足は、人間の唾液が苦手だそうだ・・・、

少なくとも、今昔物語にはそう書いてあったような気がする・・・。

子供心に、妙に感心したものである・・・。

それにしても・・・、

今昔物語をはじめ・・・、

古典は面白いものであるなあ……。

## 明智光秀

子供の頃から……、

明智光秀公が好きである……。

ただの謀反人とは思えない……。

皆が恐れおののいていた、あの、信長を討ち取ったのである……。

謀反人どころか……、

源氏の英雄ではないか……。

そう思うのは、私だけであろうか……？

そんなことはあるまい……。

## 萩原朔太郎……詩の原理……。

最近……、

萩原朔太郎の・・・、

「詩の原理」を読んでいる・・・。

しかしながら・・・、

難しくて・・・、

さっぱりわからない・・・。

詩を書くということは・・・、

難しいものであるなあ・・・。

## 武田信玄

武田信玄は・・・、

実父、信虎を追放して、国を治めたと言われている・・・。

信虎は、毒親であったのだろうか・・・？

信玄は正しいと思う・・・。

親が正しいとは限らない・・・。

毒親を持った子は・・・、

信玄のように・・・、

親を、追放したくなるのであろう……。

私の親も、毒親であるからして……、

追放したいものであるなあ……。

## ドロリツチを飲んでいた男

昔……、

職場に……、

一歳年上の先輩がいた……。

国立大卒のインテリだった……。

物静かで……、

温厚で……、

仕事が出来た……。

そして……、

小食だった……。

昼ごはんは……、

コンビニ Pastaなどで済ませていた……。

ある日・・・、

彼が・・・、

ドロリッチを飲んでた・・・。

なんか以外な気がした・・・。

当時はやっていた、ドロリッチ・・・。

美味しいのであろうか・・・？

そんなことを考えた・・・。

それから私は・・・、

その職場を去った・・・。

彼は今でも元気なのであろうか・・・？

そして・・・、

いまでも、ドロリッチを飲んでいるのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

ドロリッチを飲んでた男のことを・・・。

## ランダムハウス英和大辞典

小学館から発行されている・・・、

ランダムハウス英和大辞典を買った・・・。

何と、3000ページ・・・。

かなり分厚く、重たい・・・。

英文学者にでもなった気分である・・・。

しかしながら・・・、

使いこなせるのであろうか・・・？

甚だ疑問である・・・。

## 清水宗治、湖上の切腹

備中高松城主、清水宗治公・・・。

秀吉の水攻めで、苦戦した・・・。

城下は、水浸しになった・・・。

宗治公は・・・、

家臣と領民を守るため・・・、

腹を切った・・・。

水浸しになり、湖の様になった、領土で・・・。

しかも・・・、

船の上で・・・。

その時・・・、

本能寺で、信長は討ち取られていたのであるが・・・。

正しく・・・、

武士の鑑である・・・。

ああ・・・、

清水宗治公・・・、

安らかに眠りください・・・。

## Each Time

「Each Time」・・・、

大瀧詠一さんとの、出会いのアルバムである・・・。

高校時代、製品版のカセットを、妹が借りてきた・・・。

それまで、アイドルや、歌謡曲しか聴いてなかった私は、あまり聴く気がしなかった・・・。  
しかしながら・・・、

昔は、今と違い、自宅で聴ける音楽は限られたものであった・・・。

自分のレコードを聞き飽きた私は、そのカセットを聞きたく思った・・・。

そして、聴いてみた・・・。

な・・・、

何だこの音楽は・・・、

こんな音楽聴いたこと無いぞ・・・。

そう思った・・・。

借り物なので、当然のことながら、妹は友人に返した・・・。

私はどうしても、その音楽をまた聴いてみたくなった・・・。

「夏のペーパーバック」が、脳内リピートされていた・・・。

学校から帰って、妹に、アーティスト名と、アルバムタイトルを聞いてきてくれるように頼んだ・・・。

そう・・・、

はずかしながら・・・、

大瀧さんのことを知らなかったのである・・・。

次の日、妹が言った・・・、

「大瀧詠一さんの『Each Time』ってどうアルバムらしいよ……。」  
……と……。

私は有り金全部持って、レコード屋へ向けて、チャリをかつ飛ばした……。

そして……、

見つけた……、

「Each Time」を……。

同時に……、

「Long Vacation」と……、

「ナイアガラムーン」も買った……。

財布の中は、空っぽになった……。

それでも嬉しかった……。

それ以来……、

大瀧さんの音楽を聴き続けている……。

松本隆先生の言葉を借りれば……、

12月の旅人になってしまわれたが……、

今でも、大勢のファンが、大瀧さんのサウンドに酔いしれている……。

「Each Time」……、

思い出深いアルバムである……。

## 韓国広足

修験道の祖、役行者様・・・。

その、ライバル、というか、邪魔をした・・・、

韓国広足という、謎の人物がいたらしい・・・。

行者様に弟子入りしてみたり・・・、

朝廷に、讒言したり・・・、

やること為すこと、出鱈目な男である・・・。

行者様の、足元にも及ばない悪人なので・・・、

最後には、完膚なきまでに叩きのめされている・・・。

何時の時代にも・・・、

身の程知らずの、愚かな悪党がいるものであるなあ・・・。

## アルチザン

「アルチザン」

山下達郎さんのアルバムである・・・。

しかも・・・、

最初に買ったアルバムだ・・・。

飛行機の中で、「さよなら夏の日」を聴いて・・・、

どうしても欲しくなった・・・。

就職したばかりの頃だった・・・。

お小遣いで買った・・・。

とにかく聴きまくった・・・。

名盤である・・・。

それから・・・、

山下達郎さんの、サンソンを聴き続けている・・・。

正確に言えば・・・、

サタソン・・・、

つまり、土曜日にやっていた頃から聴いている・・・。

30年ほど聴き続けているであろうか・・・。

まあ・・・、

内容にはついていけないが・・・。

達郎さんの話を聞いているだけで、心が癒やされる・・・。

不思議な魅力を持った方である・・・。

これからも・・・、

名曲を歌い続けていかれることであろう・・・。

## 生命の実相

「生命の実相」全四十巻・・・。

生長の家の創始者・・・、

谷口雅春先生の著書である・・・。

この本は、友人から勧められた・・・。

最初は、抵抗があった・・・。

しかしながら・・・、

友人が強く進めるので、読んでみた・・・。

読んでみて驚いた・・・。

とんでもなくいいことが書かれている・・・。

古今東西の、宗教、学問など・・・。

私はこの本を・・・、

十年以上、毎晩繰り返し読んでいる・・・。

読み返すたびに、新たな発見がある・・・。

読書百べん、自ずから靈験顯わる・・・、  
である・・・。

これからも、読み続けていく・・・。

## Burn your bridge behind N O N

Burn your bridge behind N O N

背水の陣をしけ・・・。

という意味である・・・。

兵法の定石からは外れている・・・。

敵を攻めるにも、死地に追い込んではいならない・・・、

というのが、兵法の定石のようだ・・・。

死地は、逃げ場がないので、死にもぐるいで戦うより道はない・・・。

それで、敵を攻めるにも、一箇所は、逃げ道を用意しておかねばならない・・・。

それが、兵法の定石のようである・・・。

窮鼠猫を囓む・・・、

ということにならないためである・・・。

しかしながら・・・、

背水の陣は・・・、

敢えて、味方を死地において、死にものぐるいで戦わせる、という戦術である・・・。

まあ・・・、

現代日本では、戦闘するということはないのではあるが・・・、

人生という戦場においては・・・、

背水の陣をしく・・・、

ということも、必要になるのであろう・・・。

## 日本語大辞典

講談社の・・・、

「日本語大辞典」・・・、

を、古本で買った・・・。

広辞苑程ではないが・・・、

かなり分厚い・・・。

しかしながら・・・、

カラー写真なども掲載されており・・・、

文字も読みやすい・・・。

広辞苑よりも、便利な気がする・・・。

しかし・・・、

である・・・。

この本・・・、

一体何に使おうか・・・？

それが疑問である・・・。

## リンドバーグ大佐とブロムリー中尉

リンドバーグ大佐は、大西洋横断飛行に成功した・・・。

一方・・・、

ブロムリー中尉は、太平洋横断飛行に失敗した・・・。

どのような違いがあったのであろう・・・？

リンドバーグは、救援など求めずに、ただひたすら、パリを目指して飛んだらしい・・・。

ブロムリー中尉は、青森の空港から出発したが、救援要請ばかりして、結局、青森県の寒村に不時着したらしい・・・。

リンドバーグは素晴らしい・・・。

しかしながら・・・、

ブルムリー中尉を批判することができるであろうか・・・？

私には出来ない・・・。

リンドバーグのように、初志貫徹することができれば、それに越したことはない・・・。

しかしながら・・・、

我々一般の人間は・・・、

ブルムリー中尉と同じようなことを繰り返しているのではなからうか・・・？

まあ・・・、

それはそれとして・・・、

やっぱり・・・、

リンドバーグ大佐のような人間になりたいものであるなあ・・・。

心だに誠の道にかないなば、  
祈らずとても神や護らん

菅原道真公の和歌に・・・、

「心だに誠の道にかないなば、  
祈らずとても神や護らん」

というものがあるそうだ・・・。

ああ・・・、

誠というものは・・・、

本当に大切なものであるなあ・・・。

逆に・・・、

誠が無ければ・・・、

どんなに祈っても・・・、

神様は・・・、

護ってくださらないのであろうなあ・・・。

## 身を捨ててこそ、浮かぶ瀬もあれ

身を捨ててこそ、浮かぶ瀬もあれ・・・。

よく知られている言葉である・・・。

しかしながら・・・、

元をたどれば・・・、

「山川の末に流るる椽殻も、実を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ。」

という古歌に由来するようである・・・。

橡の実は、実を捨てるがゆえに、橡の殻は流れていく・・・、  
という意味であろうか・・・？

作者は、あの、空也上人というのが有力なようである・・・。

いずれにせよ・・・、

我が身可愛さに、身命を惜しんでいるのは、何事も成し遂げることが出来ない・・・、

という意味であろう・・・。

実践するのは難しいと思うが・・・、

真理を穿っていると思う・・・。

## MENSA

MENSA・・・。

知能指数が高い人だけが入会出来る団体・・・。

入りたいなあ・・・。

でも・・・、

無理だろうなあ・・・。

## 新選組

新選組・・・。

今でもなお人気がある・・・。

しかしながら・・・、

新選組は・・・、

時代に逆行した存在だったと思う・・・。

武士の時代が終わろうとしている時期に・・・、

本来の武士よりも・・・、

武士らしくあろうとした存在・・・。

悲哀を感じるのは、私だけではあるまい・・・。

## ジャン・クリストフ

ロマン・ローランの・・・、

「ジャン・クリストフ」を買った・・・。

古本で・・・。

クリストフが、神と対話している場面を読みたかったのである・・・。

しかしながら・・・、

探し出せない・・・。

順を追って読むには、長すぎる・・・。

ああ・・・、

ジャン・クリストフ・・・。

ああ・・・、

ロマン・ローラン・・・。

いい加減にしてくれ・・・。

## シラー

あのシラーは言ったらしい・・・。

「叡智においては悲観主義、意思においては楽観主義。」

・・・と・・・。

ううん・・・、

なるほど・・・。

私の場合は・・・、

「叡智においては楽観主義、意思においては悲観主義。」

・・・になってしまいがちである・・・。

ああ・・・、

天才と凡人では・・・、

こうも違うものなのであるなあ・・・。

## 恐怖心と、足利尊氏

谷口雅春先生によれば・・・、

人生の不幸の元は、恐怖心だそうだ・・・。

この恐怖心をなくせば、幸せになれるらしい・・・。

しかしながら、である・・・。

それが難しいのである・・・。

一方・・・、

安岡正篤先生の著書によれば・・・、

あの足利尊氏は・・・、

どんな戦場においても、恐れることがなかったらしい・・・。

つまり・・・、

恐怖心がなかったのであろう・・・。

尊氏は・・・、

後醍醐天皇様に背いた逆臣であるが・・・、

凡人とは違って、凄いものであるなあ・・・。

## 項羽と劉邦

高校時代から・・・、

項羽が好きであった・・・。

悲運の英雄と言ったところか・・・。

しかしながら・・・、

本をよく読んでみると・・・、

項羽は・・・、

虐殺などの、傍若無人な行動が多かったようである・・・。

それでは・・・、

天に滅ぼされても仕方あるまい・・・。

一方・・・、

劉邦は・・・、

非常に温厚な人柄だったらしい・・・。

それで・・・、

後に、漢の武帝として君臨した・・・。

やはり、温厚な人柄だと・・・、

天に愛されるのであるなあ・・・。

## 毒親について

最近、毒親という言葉を目にする・・・。

実際にいるのであろう・・・。

いや、いる・・・。

まさに、私の親がそうである・・・。

本当に、たちが悪い・・・。

仕事ならやめれば済むが・・・、

親となると・・・、

・・・。

信玄が、信虎を追放したように・・・、

追放したいものであるなあ・・・。

## parricide

アンブローズ・ビアスは・・・、

悪魔の辞典の中で・・・、

parricideの事を書いている・・・。

「子供が親に対して加える情けの一撃。これによって人の親たるものは、果たして自分は親であるか否かどまざる苦悩から開放される。」

・・・と・・・。

## 仲よきことは、美しき哉

「仲よきことは、美しき哉」

と、色紙に書いたのは・・・、

武者小路実篤であったらどうか・・・？

最近、親子関係で悩んでいる・・・。

まずは、家族仲良くしようと思った・・・。

## 宇宙元旦

3月20日は・・・、

宇宙元旦だそうだ・・・。

しかしながら・・・、

宇宙元旦って・・・、

一体何なのであろうか・・・？

全てが好転すればいいなあ・・・。

## 河合継之助

河合継之助は・・・、

「なくてはならぬ人か、あつてはならぬ人になれ。」

と言ったそうだ・・・。

面白い言葉である・・・。

いてもいなくても、どうでもいい人にはなるな・・・、

という意味であろうか・・・？

意味深い言葉であるように感じられる・・・。

## 巧言令色鮮し仁

論語に・・・、

「・・・巧言令色鮮し仁・・・。」

という言葉がある・・・。

口先だけで、綺麗ごとをいっても、駄目だということである・・・。

私も、ついつい、口先だけで綺麗ごとを言ってしまう・・・。

そのたびに、反省する・・・。

現代では、口先を飾ることばかり考えている人が多いのではなからうか・・・。

それで、信頼をなくしたり・・・、

詐欺が横行するのではあるまいか・・・？

よくよく考えるべきことである・・・。

## 畑仕事

暖かくなってきたので・・・、

久しぶりに、畑仕事をした・・・。

祖母の存命中は、二人でやっていたのであるが・・・、

今は一人でやっている・・・。

疲れたが、心地よい疲れである・・・。

祖母は生前・・・、

「仕事は葉」・・・、

と言っていた・・・。

その意味が・・・、

最近になって、やっとわかってきた……。

養老先生によれば……、

昔の人は、毎日、農作業をして、土の上で働いていたから強かった……、

というようなことを書いておられたと記憶している……。

確かに祖母は強かった……。

そして……、

働き者であった……。

その上……、

欲がなかった……。

だから一層強かったのであろう……。

論語に……、

「……吾未だ剛者を見ず……。」

……とある……。

もしかすると……、

であるが……、

祖母は……、

剛者であったのかもしれない……。

## トイレ掃除

ここ数年・・・、

毎晩、トイレ掃除をしている・・・。

不思議と心が落ち着く・・・。

その上・・・、

運がよくなるそうである・・・。

これからも・・・、

トイレ掃除は・・・、

続けていきたいものである・・・。

親思う心に勝る親心、今日の良き日を如何に過ごさん

吉田松陰先生は詠んだ・・・。

親思う心に勝る親心、今日の良き日を如何に過ごさん・・・。

・・・と・・・。

やはり・・・、

親は、有り難いものである・・・。

あまりにも近い関係なので、イライラしたりする・・・。

しかしながら・・・、

それは・・・、

愛情の裏返しなのであろう・・・。

これからは・・・、

親孝行していききたいと思う・・・。

## 従順

谷口雅春先生によれば・・・、

従順は、最大の徳だそうである・・・。

私もいい年であるから・・・、

反抗せずに・・・、

従順でありたいものである・・・。

## 死霊

埴谷雄高は・・・、

人生をかけて・・・、

死霊を書いた・・・。

素晴らしい作品である・・・。

しかしながら・・・、

素晴らしく難解である・・・。

よって・・・、

20年以上前からチャレンジしているのであるが・・・、

ことごとく、敗北している・・・。

今度こそ・・・、

完読したいものである・・・。

## 睡眠

谷口雅春先生によれば・・・、

仕事に全身全霊をもって打ち込めば・・・、

睡眠時間は・・・、

全く不要になるものであります・・・。

とのことである・・・。

そんなことがありえるのであろうか・・・？

まあ・・・、

あのニュートンも、ほとんど眠らず、食わずだったそうであるからして・・・、

あながち嘘ではないのかもしれない・・・。

## 大西巨人

大西巨人の・・・、

神聖喜劇を・・・、

ずい分前から読もうとしているが・・・、

挫折してしまう・・・。

今度・・・、

迷宮を買った・・・。

まずはこっちから読んでみようか・・・。

何となく・・・、

また挫折しそうな予感が・・・。

## 合気術の男

就職して・・・、

同期に、ある男がいた・・・。

同期とはいえ、何歳か年上であった・・・。

しかし・・・、

同期の中では、一番仲が良かった・・・。

彼は、合気術をやっていた・・・。

なんでも・・・、

昇段試験の伝授料が・・・、

何十万円もするとのことであった・・・。

そのうち彼は異動になり・・・、

私はその職場を去った・・・。

それから、彼とは会っていない・・・。

随分と長い年月が流れたが・・・、

彼は今でも元気なのであろうか・・・？

そして・・・、

今でも、合気術を続けているのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

合気術の男のことを・・・。

## 命の初夜

北條民雄は・・・、

命の初夜を書いた・・・。

ハンセン病患者であった北條にとって・・・、

生きた証であった・・・。

不治の病とされていた昔のことであるから・・・、

なおのことである・・・。

しかしながら・・・、

昔のことであろうか・・・、

差別や偏見などは・・・、

ハンセン病に限らず、根強く残っている・・・。

石牟礼先生の、「苦海浄土」と・・・、

何か・・・、

相通ずるものがある気がするの、気のせいであろうか・・・？

## 19..00の男

学生時代、親友がいた・・・。

カラオケで・・・、

毎回・・・、

野口五郎さんの・・・、

「19..00の街」を歌っていた・・・。

特別上手いわけではなかったが・・・、

私は・・・、

あいつが歌う・・・、

「19・・・00の街」が好きであった・・・。

大学卒業後・・・、

彼とは会っていない・・・。

彼は今も、元気になっているのだろうか・・・？

そして・・・、

いまでも・・・、

「19・・・00の街」を歌っているのだろうか・・・？

時々思い出す・・・、

19・・・00の男のことを・・・。

## とある昔話

昔なんかで読んだ・・・。

旅のお坊様が・・・、

ある村を訪れた・・・。

おばあさんが、井戸のそばにいたので・・・、

お坊様は、水を所望した・・・。

ところが、である・・・。

その婆さんは、意地悪で・・・、

お坊様に、水を飲ませなかった・・・。

お坊様が・・・、

錫杖で、トンと地面をついた途端・・・、

その井戸は枯れてしまった・・・。

そのお坊様は・・・、

あの、弘法大師空海様だったのである・・・。

ああ・・・、

何時の時代も・・・、

意地悪な年寄りは・・・、

駄目なものであるなあ・・・。

## 車検

愛車を・・・、

車検に出した・・・。

古い車なので・・・、

面倒くさいが・・・、

有り難いものである・・・。

タイヤがすり減っていたので・・・、

丁度よかった・・・。

代車は・・・、

新しい軽自動車である・・・。

愛車よりも遥かにいい・・・。

代車は・・・、

大切に扱わなければ・・・。

ああ・・・、

早く車検が終わればいいなあ・・・。

## クラス会

夏に、クラス会をすると・・・、

友人から連絡があった・・・。

高校時代のクラス会である・・・。

これまで・・・、

ドタキャンを繰り返していたので・・・、

今度こそは・・・、

出席しよう・・・。

会いたい人には・・・、

会っておきたい・・・。

人間は・・・、

永遠に生きるのではないのであるから・・・。

## 領解文

浄土真宗のお経に・・・、

領解文というものがる・・・。

諸々の雑業雑修、自力の心を振り捨てて・・・、

という感じて始まる・・・。

そして・・・、

阿弥陀如来様に、帰依いたします・・・。

というものである・・・。

子供の頃・・・、

祖母から教えられて・・・、

私は・・・、

毎朝毎晩・・・、

唱えている・・・。

南無阿弥陀仏と唱えれば、どんな悪人でも救われる・・・、

という・・・、

浄土真宗の教えの、真髄ではないかと思う・・・。

これからも・・・、

生きている限り・・・、

唱えていきたいものである・・・。

## 君子の交わりは、淡き水のごとし

君子の交わりは、淡き水のごとし・・・。

安岡先生によれば・・・、

これは、誤解されているということである・・・。

淡き水のごとし・・・、

という意味は・・・、

たださっぱりしているというものと誤解されているらしい・・・。

淡き水のごとし、というのは、もっと深い意味があるそうだ・・・。

水は、確かに、無味無臭であるが、その分、味わい深いということである・・・。

ということを書いておられたと記憶している・・・。

そして・・・、

君子の交わりも、味わい深い、という意味だったような気がする・・・。

また・・・、

茶のみ友達、という言葉も、誤解されているらしい・・・。

ただの気安い友達という意味ではなく・・・、

味わい深い関係である・・・、

というようなことを述べておられたと思う……。

何気なく使っている言葉も……、

本当の意味を知らずに……、

間違っ使っているものであるなあ……。

## 剛毅木訥仁に近し

巧言令色少し仁……、

の反対である……。

口を飾らずに……、

不器用でもいいから……、

誠実に生きていきたいものである……。

質実剛健と言ったところであろうか……。

不言実行か……？

## 文学乞食

むかし・・・、

文学乞食・・・、

という言葉があつたそうだ・・・。

文学をやると・・・、

生活に困って・・・、

飯が食えなかつたらしい・・・。

まあ・・・、

私は文学者ではないから・・・、

よくわからない・・・。

しかしながら・・・、

ああ・・・、

私は・・・、

乞食のような生活をしているものであるなあ・・・。

## 火花

「火花」・・・、

を買った・・・。

とはいえ・・・、

あっちの火花ではない・・・。

北條民雄の人生に迫る、ノンフィクション作品である・・・。

北條の作品に勝るとも劣らない・・・、

凄まじい作品である・・・。

読み込みたいものであるなあ・・・。

## リーマン予想

リーマン予想の本を買った・・・。

講談社ブルーバックスである・・・。

しかしながら・・・、

さっぱりわからない・・・。

ゼータ関数が・・・云々・・・、

ちっともわからない・・・。

さすがに・・・、

無謀なチャレンジであった・・・。

## 塩焼きそば

塩焼きそばのカップ麺が・・・、

コンビニに売ってあるらしい・・・。

最近・・・、

やたらと・・・、

塩気のものが食べたい・・・。

早速明日・・・、

セブンで買ってみよう・・・。

人が何をしたか・・・ではなく・・・。

ブツダ様は仰せになっている・・・。

人が何をしたかではなく・・・、

自分が何をして、何をしなかったかのほうが、重要であると・・・。

多分、法句経だったと思う・・・。

人は・・・、

自分のことは棚に上げて・・・、

人のことばかり批判する・・・。

そういう人は、出鱈目なことばかりして・・・、

責任を、他人になすりつける・・・。

そうはなりたくないものであるなあ・・・。

積善改過に励もう・・・。

## 芽が出た

畑に蒔いた種から・・・、

やっと・・・、

芽が出た・・・。

このまま順調に、成長してほしいものである・・・。

これからも・・・、

畑仕事に励もう・・・。

## iOSアップデート

久しぶりの・・・、

iOSのアップデート・・・。

何が変わったのか・・・、

全くわからない・・・。

しかしながら・・・、

アップデートできるどころか、

有り難いものであるなあ・・・。

## 裏切り

小山田は・・・、

勝頼を裏切った・・・。

武田は滅んだ・・・。

小山田は・・・、

信長に・・・、

粛清された・・・。

何時の時代にも・・・、

裏切り者はいる・・・。

しかしながら・・・、

裏切り者の末路は・・・、

哀れなものである・・・。

天罰か・・・？

因果応報か・・・？

成功は常に苦辛の日に在り、敗事は多く得意の時に因る

安岡正篤先生の本に書いてあった・・・。

「成功は常に苦辛の日に在り、敗事は多く得意の時に因る・・・。」

振り返ってみれば・・・、

確かに・・・、

苦しい努力を続けている時に、成功し・・・、

上手くいって、調子に乗っていると、失敗してきた・・・。

味わい深い言葉である・・・。

今私は、苦辛の日々である・・・。

安岡先生の言葉を、肝に銘じて・・・、

努力を続けていきたいものである・・・。

## 悪人正機

「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや・・・。」

親鸞上人の唱えられた、悪人正機説である・・・。

私は悪人であるから・・・、

少なくとも善人ではないのであるから・・・、

極楽往生できればいいなあ・・・。

## 夢

今朝方、夢を見た・・・。

夢に出てきたのは、駄菓子屋のおばあちゃんだった・・・。

今では鬼籍に入っておられる・・・。

子供の頃から、随分とお世話になったものである・・・。

大学受験直前には・・・、

私が好きだった、UCCコーヒーを、ケースごとプレゼントしてくれた・・・。

お陰で、大学に合格できた・・・。

とっても優しく、いつも笑顔の人であった・・・。

懐かしかった・・・。

少し心が優しくなった・・・。

ちなみに・・・、

宝くじに当選した夢も見たが・・・、

これは・・・、

別にどうでもいい・・・。

夢とは、不思議なものであるなあ・・・。

## 従順

谷口雅春先生によれば・・・、

従順は・・・、

最高の徳であるそうだ・・・。

しかしながら・・・、

従順であることは、以外に難しいものである・・・。

他人に対しては、まだよい・・・。

他人に従順になることは、さほど難しいことではない・・・。

ただ・・・、

問題になるのは、家族との関係である・・・。

特に、親子関係である・・・。

他人には従順になれても・・・、

親に対して従順になることは・・・、  
以外に難しい・・・。

ちょっとしたことで苛々する・・・。

これからは・・・、

両親に対して・・・、

従順になろうと思う・・・。

## 最近、夢見がいい

ここ最近・・・、

夢見がいい・・・。

いい夢ばかり見る・・・。

いいことあればいいなあ・・・。

## 仕事と恋愛

仕事は大事だ・・・。

しかし・・・、

それ以上に大事なのは・・・、

恋愛だ・・・。

結婚だ・・・。

昔・・・、

荒神さんに言われた・・・、

「・・・仕事はいいから、結婚からしなさい・・・。そうすれば、話し相手ができるから・・・。」

・・・と・・・。

いまさらながら思う・・・、

恋愛、結婚は大事である・・・。

仕事以上に・・・。

今年こそは・・・、

結婚したいものであるなあ・・・。

## トップファンバッジ

最近・・・、

ネットで・・・、

トップファンバッジをもらった・・・。

しかも・・・、

あの・・・、

トラベリング・ウィルベリーズの・・・、

トップファンバッジを・・・。

なんだか・・・、

嬉しくて・・・、

泣いた・・・。

これからも・・・、

聴き続ける・・・、

トラベリング・ウィルベリーズを・・・。

子曰く、君子は器ならず。（渋沢先生の著書より引用。）

「子曰く、君子は器ならず。」

渋沢先生と、竹内先生の訳によれば・・・、

「君子と言える人は器物のようなものではない、器物を使う人である。」

という意味のようである……。

君子にはなれなくとも……、

君子に使われる……、

器物ぐらいにはなりたいものであるなあ……。

## 口は災いのもと

私はこれまで……、

「口は災いのもと」……、

というようなことを、何度も経験してきた……。

そして最近……、

また……、

「口は災いのもと」……、

というような経験をした……。

人様と話すときには、よくよく考え……、

言葉を選んで話すべきだと、痛感した……。

無門関にも……、

「他人の弓は引いてはならぬ、

他人の馬は騎ってはならぬ。

他人の落ち度は言ってはならぬ、

他人のことは知ってはならぬ。」

とある……。

ううん……、

何とも味わい深い言葉である……。

## 散る桜、残る桜も、散る桜

桜も散り始めた……。

葉桜も見かける……。

「散る桜、残る桜も、散る桜。」

とは、誰の言葉であつただろうか……？

我々人間も……、

いつかは散りゆく……。

そうであるからこそ……、

一日一日を……、

精一杯生きていきたいものである……。

## 拾った50円。

小学生の頃……、

帰り道……、

50円玉を拾った……。

そして……、

駐在所のお巡りさんに届けた。

お巡りさんは、たいへん喜んでくださった……。

50円玉は保管された……。

そして……、

自分の小銭入れから、50円玉を取り出して……、

「届けてくれてありがとう、これはご褒美だよ。」

とおっしゃって……、

50円くださった……。

そして……、

学校の先生からもほめていただいた・・・。

お巡りさんから、学校に連絡があったのであろう・・・。

そして・・・、

作文まで書いた・・・。

「拾った50円」というタイトルで・・・。

そして、その作文は、学校の文集に掲載された・・・。

ただそれからのことではあるが・・・、

子供心に・・・、

正直であれば、報われるのだなあ・・・。

というようなことを感じた・・・。

ただそれだけのことはあるが・・・、

時々思い出す・・・。

これからも・・・、

子供の頃の・・・、

純粋な気持ちは・・・、

忘れないでいたいものである・・・。

## 初任給。

初任給は・・・、

手取り12万円だった・・・。

30年以上前の話である・・・。

まともな人間であれば・・・、

両親に何かを、プレゼントするであろう・・・。

しかしながら・・・、

私はまともな人間ではないので・・・、

両親には、何もプレゼントしなかった・・・。

そのことは、今でも後悔している・・・。

私は・・・、

両親にプレゼントする代わりに・・・、

妹に、1万円送った・・・。

というのは・・・、

妹は当時・・・、

アルバイトをしながら・・・、

大学に通っていたからである・・・。

そんな妹も・・・、

結婚して、二児の母となった・・・。

その二人の子供も・・・、

成人した・・・。

妹は・・・、

私を送ったお金のことなど・・・、

忘れているであろう・・・。

いや・・・、

忘れていて欲しい・・・。

今年もそろそろ・・・、

母の日である・・・。

今年は・・・、

何をプレゼントしようか・・・。

二宮金次郎さん・・・の・・・銅像・・・。

中学時代・・・、

イジメられていた・・・。

イジメられるとわかっている・・・、

毎日、学校に通っていた・・・。

下校の時・・・、

小学校の横を通って帰っていた・・・。

そこには・・・、

二宮金次郎さんの銅像があった・・・。

私は毎日・・・、

二宮金次郎さんに・・・、

敬礼していた・・・。

何でそんなことをしていたのか・・・、

今となっては謎である・・・。

しかしながら・・・、

とにかく、毎日、敬礼していた・・・。

もしかすると・・・、

イジメに耐えられたのは・・・、

二宮金次郎さんのご加護だったのかもしれない・・・。

時々思い出す・・・、

イジメられながらも・・・、

毎日・・・、

二宮金次郎さんに、敬礼していた日々のことを・・・。

## 最後のドライブ・・・。

祖母を・・・、

よく、車で、送り迎えしていた・・・。

色んな所へ送った・・・。

友達との会合・・・、

護国神社・・・、

山・・・、

等など・・・。

しかしながら・・・、

祖母を最後に送ったのは・・・、

苗物やさんだった・・・。

祖母は働き者だったので・・・、

毎日・・・、

朝から晩まで・・・、

畑仕事をしていた・・・。

今日は祖母の命日である・・・。

色んなことを考えた・・・。

もっと・・・、

色んな所に・・・、

連れて行けばよかったなあ・・・、

・・・と・・・。

若者のままの、じいちゃん・・・。

祖父は・・・、

戦死している・・・。

昭和20年8月15日・・・、

終戦の日に・・・。

旧満州で・・・、

旧ソ連軍との戦闘で・・・。

それであるから・・・、

写真の中の祖父しか知らない・・・。

軍服を着た・・・、

二十歳そこそこの若者である・・・。

祖父は、年を取らない・・・。

若いまんまだ・・・。

私は・・・、

祖父の、二倍以上生きた・・・。

変な話ではあるが・・・、

祖父が孫で・・・、

孫が祖父のようである・・・。

毎朝・・・、

写真の中の祖父に、挨拶する・・・。

俺の孫のように若い爺さん・・・、

いつか会おうや・・・。

## アラバマ物語・・・。

「アラバマ物語」・・・。

昔観た映画である・・・。

主演は、グレゴリー・ペック・・・。

アメリカの良心とまで言われた男である・・・。

その映画は・・・、

人種差別の残る、アメリカ南部が舞台であった・・・。

無実の罪で逮捕された黒人少年を救うために・・・、

グレゴリー・ペック演ずる、弁護士が立ち上がった・・・。

彼本人はもちろん・・・、

家族まで、誹謗中傷され・・・、

村人から迫害を受けた・・・。

しかしながら・・・、

それでも・・・、

彼は、戦い続けた・・・。

そして・・・、

真実が明らかになり・・・、

無罪を勝ち取った・・・。

本当に素晴らしい映画である・・・。

グレゴリー・ペック演ずる、弁護士のような人物が・・・、

現代日本に・・・、

どれくらいいるのであろうか・・・？

また観てみたい映画である・・・。

## ブラジルから来た少年・・・。

「ブラジルから来た少年」・・・。

昔観た映画である・・・。

細かな内容は忘れたが・・・、

あのヒトラーのクローンが・・・、

ブラジルで造られたというような内容であったと記憶している・・・。

ラストシーンが凄まじかった・・・。

ローレンス・オリビエと、グレゴリー・ペックが・・・、

死闘を演じた・・・。

二人共年寄りなので・・・、

アクション映画のような戦いではなかった……。

しかしながら……、

だからこそ……、

すさまじいまでの迫力があった……。

また観てみたいものであるなあ……。

## カーネーション……。

毎年……、

母の日には……、

カーネーションを……、

プレゼントしている……。

決して、高価なものではない……。

気持ちばかりのプレゼントである……。

しかしながら……、

山下達郎さんも……、

サンソンのなかで……、

気は心……、

と言っておられた・・・。

これからも・・・、

母の日には・・・、

カーネーションを・・・、

プレゼントしよう・・・。

人間は・・・、

永遠に生きるわけではないのだから・・・。

## 猜疑心・・・。

私は・・・、

猜疑心が強い・・・。

要するに・・・、

疑い深いのである・・・。

つい・・・、

狐疑逡巡してしまう・・・。

気が小さいからか・・・？

自信がないからか・・・？

そう・・・、

自信がないのだ・・・。

自分を信じる事が出来ないのだ・・・。

自分を信じる事の出来ない人間に・・・、

どうして人を信じる事ができようか・・・。

人を信じられなくなると・・・、

生きるのが苦しくなる・・・。

他人が恐ろしくなる・・・。

もう・・・、

これからは・・・、

猜疑心を捨てて・・・、

他人を信じよう・・・。

そしてその前に・・・、

自分自身を信じよう・・・。

そうすれば・・・、

自信が出る・・・。

それでもって・・・、

他人を信じていることができるのである……。

今夜……、

何となく……、

そんなことを考えた……。

## 護国神社……。

祖父は、戦死した……。

のみならず……、

祖父の長兄は……、

二十歳で未婚のまま出征……、

……戦死……。

次兄は、南方に出征……、

復員するも……、

マラリアで、病没……。

次兄の長女も、奥さんも……、

夭折……。

そうであるからして・・・、

祖母は・・・、

熱心に、吊っていた・・・。

法要も、祖母が全て取り仕切っていた・・・。

護国神社にも・・・、

二人で行っていた・・・。

しかしながら・・・、

もう祖母はいない・・・。

祖母宛てに来ていた、護国神社からの案内状が・・・、

私宛に来るようになった・・・。

今年こそは・・・、

久しぶりに・・・、

護国神社に行こう・・・。

たった一人で・・・。

いや・・・、

エーテル体となった・・・、

祖母と二人で・・・。

ゴールデンウィーク・・・。

今年も・・・、

ゴールデンウィークが過ぎ去った・・・。

例のごとく・・・、

どこにも行かなかったし・・・、

何もしなかった・・・。

ゴールデンウィークって・・・、

一体・・・、

何なのであろうか・・・？

ホームボーイ・・・。

「ホームボーイ」・・・、

昔観た映画である・・・。

主演は・・・、

ミッキー・ローク・・・。

流れ者の、ボクサーの話である・・・。

期待したほど面白くはなかった・・・。

ミッキー・ロークが・・・、

やたらとアスピリンを飲んでいたのが気になった・・・。

共演していた・・・、

クリストファー・ウォーケンのほうが、遥かに良かった・・・。

最後に・・・、

警察官に射殺されたのは・・・、

自業自得といえよう・・・。

まあ・・・、

チンピラの裏切りもあったのだが・・・。

いずれにせよ・・・、

映画としてはつまらなかった・・・。

しかしながら・・・、

大いなる収穫もあった・・・。

音楽を担当していた・・・、

エリック・クラプトンの存在を知ったことである・・・。

聞いたところによれば・・・、

ミッキー・ロークが・・・、

エリック・クラプトンのファンだったので・・・、

映画音楽を依頼したとのことである・・・。

それから・・・、

エリック・クラプトンのファンになった・・・。

まあ・・・、

CDを買ったのは・・・、

それから、10年後のことであるのだが・・・。

クラプトンのライブに・・・、

行ってみたいものであるなあ・・・。

## エリック・クラプトンの絵葉書・・・。

学生時代・・・、

一人の親友がいた・・・。

そいつは、Hといった・・・。

Hとは、語学のクラスが同じで・・・、

二人とも、司法試験受験サークルに所属していた・・・。

Hは、司法試験を続けるため、大学院へと進学した・・・。

一方私は、司法試験を諦めて、就職した・・・。

その後・・・、

二人とも故郷へと帰った・・・。

それから、しばらく音信不通だった・・・。

2000年頃、どういう訳か、私は洋楽にハマって・・・、

CDを買いまくっていた・・・。

特に傾倒していたのは、エリック・クラプトンであった・・・。

ある日、CD屋さんで、エリック・クラプトンの絵葉書をもらった・・・。

私は何となく・・・、

その絵葉書に何かを書いて、Hに送った・・・。

それから数年ほど絶って・・・、

どうしても・・・、

Hに電話したくなったので、電話した・・・。

すると・・・、

「・・・おう、司法試験受かったぞ・・・。」

と彼は言った・・・。

何となく、拍子抜けした……。

それからさらに時は流れ……、

コロナ禍での、zoom 飲み会で……、

Hと再会した……。

学生時代には……、

ヒョロガリだったのに……、

プロレスラーみたいに、ゴツくなっていた……。

弁護士になったから、こんなにゴツくなったのだろうか……？

等と、意味不明なことも考えた……。

それはともかく……、

zoom 越しであったにせよ……、

弁護士になったHと再会出来たことは嬉しかった……。

どうでもいいことだが……、

Hは、私が送った、エリック・クラプトンの絵葉書のことを、今でも憶えているのであろうか……？

というか……、

そもそも……、

あの、エリック・クラプトンの絵葉書は……、

Hの元に届いたのであろうか……？

時々思い出す・・・、

弁護士になったHと・・・、

エリック・クラプトンの絵葉書のことを・・・。

ヒョウ・・・。

私は・・・、

ヒョウが好きだ・・・。

と言っても・・・、

野生動物のヒョウではない・・・。

北斗の拳の登場人物であるところの、ヒョウのことである・・・。

北斗宗家の嫡男として生まれながらも・・・、

その気の弱さゆえ・・・、

カイオウが・・・、

魔導に堕ちた・・・。

それを悔やんでいたのであろう・・・。

実の弟である、ケンシロウとの闘いのあと・・・、

「・・・ケンシロウ、軟弱者の兄を許せ・・・。」

・・・と・・・ヒヨウは言った・・・。

私は思わず泣いてしまった・・・。

それは・・・、

私が、軟弱者であるからだ・・・。

私には、三つ離れた妹がいるが・・・、

妹は強い・・・。

死んだ婆さん並みに強い・・・。

子供の頃のアダ名は、ゴリさんだった・・・。

小学校から大学まで、バスケットをやっていた・・・。

妹には、散々迷惑をかけた・・・。

だからこそ・・・、

ヒヨウの気持ちがわかるのだ・・・。

私は・・・、

時々思っている・・・、

「・・・妹よ、軟弱者の兄を許せ・・・。」

・・・と・・・。

何となく・・・、

そんなことを考えた・・・。

ああ・・・、

ヒョウ・・・。

愛すべき、ヒョウよ・・・、

お前の気持ちは・・・、

よくわかるぞ・・・。

安らかに眠れ・・・。

## 俺たちの旅・・・。

子供の頃・・・、

「俺たちの旅」というドラマがあった・・・。

中村雅俊さんが主演の、青春ドラマだった・・・。

大学生の日常生活を・・・、

ドラマティックに描いてあった・・・。

私が大学生になった頃にも・・・、

再放送されていた・・・。

なんとなく・・・、

憧れていた・・・。

あんなふう生きていたらなあ・・・。

そんな感じだった・・・。

実際には・・・、

あんなにかっこよくはなれなかった・・・。

しかしながら・・・、

気持ちは・・・、

中村雅俊さんになったつもりでいた・・・。

大学を卒業して・・・、

随分と長い年月が流れた・・・。

また観てみたいなあ・・・。

「俺たちの旅」を・・・。

そして・・・、

今の若い方々にも・・・、

是非、観ていただきたい・・・。

なにか・・・、

大切なものを・・・、

感じることができると思う……。

なんとなく……、

そんなことを考えた……。

ダンパ……。「恋はメレンゲ」を聴きながら……。

学生時代……、

サークルの先輩に言われた……。

「ダンパ来ない……?」

「ダ、ダンパって何ですか……?」

「ダンスパーティーだよ。可愛い女の子と出会えるぞ。」

「そ、そうですか……。僕は結構です……。」

私は断った……。

しかしながら……、

今考えてみれば……、

ダンパに行っておけばよかったなあ……。

可愛い女の子と出会えたかもしれないのに……。

まあ・・・、

そんなことはないか・・・。

しかし・・・、

「恋はメレンゲ」を聴くたびに思う・・・、

やっぱ、ダンパに行っておけばよかったなあ・・・、

・・・と・・・。

それにしても・・・、

あの先輩は、今でも元気なのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

ダンパに誘ってくれた先輩のことを・・・。

ジエームズ・スチュワートとケーリー・グラント・・・。

学生時代・・・、

ヒッチコックとトリュフォーの対談をまとめた、分厚い本を持っていた・・・。

私の記憶に間違いがなければの話だが・・・、

その本の中で・・・、

ヒッチコックが語っていた・・・。

ジェームズ・スチュワートは、自分の演じる役を選んでいたそうである・・・。

まあ、汚れ役はやらない、と言ったところであろうか・・・。

大スターだったので、当然といえば当然の話である・・・。

一方、ケーリー・グラントは・・・、

どんな役柄でも演じたそうである・・・。

同じ、往年のハリウッドの大スターであっても・・・、

違うものであるなあ・・・、

・・・と・・・思った・・・。

それにしても・・・、

あの・・・、

ヒッチコックとトリュフォーの対談の、分厚い本は・・・、

どこへ行ってしまったのであろうか・・・？

今となっては、謎である・・・。

レイと幼い兄妹・・・（アラベスクの「バギー・ボーイ」を聴きな  
がら・・・。）・・・。

高校生の頃・・・、

「北斗の拳」が大ブレイクした・・・。

ブレイクするかしないか・・・？

という頃だったと思うが・・・、

南斗水鳥拳の使い手・・・、

レイが登場した頃の話である・・・。

レイと、幼い兄妹が出会った・・・。

食べ物も飲水も少ないという世界であったので・・・、

レイはその兄妹に、板チョコを一枚差し出した・・・。

その兄妹は喜んだ・・・。

そして、兄がそのチョコを二つに割った・・・。

しかし・・・、

均等には割れなかった・・・。

三人とも・・・、

一瞬、動きが止まった・・・。

そして……、

兄は……、

大きい方のチョコのかけらを、妹に渡した……。

妹は喜んでいた……。

それを見ていたレイも……、

ニッコリ微笑んだ……。

その時私は思った……。

「……俺は、妹に大きい方のチョコを渡すだろうか……？」

……と……。

私はレイから……、

……。

色んなことを考えた……。

40年ほど前の話である……。

北斗無双……ラオウとの最後の闘い……(アラベスクの「ペパー  
メント・ジャック」を聴きながら……)……。

少しだけ……、

昔の話ではあるが・・・、

「北斗無双」をプレイした・・・。

プレステ3版ではなく・・・、

どういう訳か・・・、

Xbox 360版をプレイした・・・。

コマンド入力の高さもあって・・・、

私は相当苦戦した・・・。

そして・・・、

ラオウとの最後の闘い・・・。

確か、5回目の闘いであったと記憶している・・・。

とんでもなく難しかった・・・。

少なくとも私にとっては・・・。

まず・・・、

回復アイテムがなかった・・・。

あるのは、オーラだけ・・・。

ラオウの強烈な攻撃をかわしながら・・・、

オーラがひとつでも溜まったら・・・、

北斗百裂拳で、HPを少しずつ削っていった・・・。

オーラが無いときには・・・、

ジャンプしての、小キックで、ラオウの体力を削った・・・。

しかしながら・・・、

肝腎の・・・、

奥義発動のコマンド入力で・・・、

ミスを連発した・・・。

コマンド入力をミスすると・・・、

敵のHPが半分も回復するという、驚くべきシステムだった・・・。

私は・・・、

三晩もかかった・・・。

自分でプレイしたゲームの中でも・・・、

最も難易度の高いゲームの一つである・・・。

ありがとう・・・、

コーエーテクモ・・・。

ありがとう・・・、

武論尊先生・・・。

ありがとう・・・、

原哲夫先生・・・。

それにしても・・・、

よくクリア出来たもんだなあ・・・。

今プレイしたら・・・、

絶対にクリアできないだろうなあ・・・。

## デボラ・ウインガー・・・。

学生時代・・・、

デボラ・ウインガーに憧れていた・・・。

ロバート・レッドフォード主演の、「夜霧のマンハッタン」を観て・・・、

心を奪われた・・・。

とても美しい女優さんであった・・・。

「愛と青春の旅立ち」

「ブラックウイドワーズ」

「シエルタリング・スカイ」

などなど・・・、

名作が多い・・・。

「シエルタリング・スカイ」は・・・、

劇場まで観に行った・・・。

しかしながら・・・、

映画の意味は、全く理解できなかった・・・。

ただ・・・、

デボラ・ウインガーは、際立って美しかった・・・。

今ではどうしておられるのであろうか・・・？

また・・・、

銀幕で観たいものである・・・。

時々思い出す・・・、

デボラ・ウインガーのことを・・・。

## 小さなこと・・・。

小さな約束を守れない人は・・・、

大きな約束も守れない・・・。

小さな嘘をつく人は・・・、

大きな嘘をつく・・・。

小さな仕事が出来ない人は・・・、

大きな仕事は出来ない・・・。

小さなことほど・・・、

大切である・・・。

そう思うのは、気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

生命を捨つるものは、かえって生命を得・・・。

イエス様は述べられたらしい・・・、

「・・・生命を捨つるものは、かえって生命を得・・・。」

・・・と・・・。

日本流に言えば・・・、

「・・・実を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ・・・。」

ということであろうか・・・？

また・・・、

「・・・汝ら思い煩うたとして、生命、寸陰ものべえんや・・・。」

・・・とも、述べられたようである・・・。

逆説的で、なかなか難しいが・・・、

要は・・・、

心配したり、くよくよしたりするな・・・。

ということであろうか・・・？

一日一日を・・・、

精一杯生きよう・・・。

そういえば・・・、

「・・・一日の苦勞は、一日にて足れり。明日のことを思い煩う事なかれ・・・。」

・・・とも、述べておられたと思う・・・。

とにかく・・・、

一休宗純さんの、遺訓のように・・・、

「心配するな、なんとかなる。」

ということではあるまいか・・・。

話が違ふかもしれないが・・・、

私の祖母は、生前・・・、

「・・・仕事が葉・・・。」

・・・と・・・、

よく言っていた・・・。

面にあらわれ、背にあふる・・・。

安岡先生の著書で読んだ・・・。

「面にあらわれ、背にあふる。」

という言葉が・・・、

「孟子」にあるそうだ・・・。

顔は何とかごまかせても・・・、

背中・・・、

後ろ姿はごまかせないとのことだったと思う・・・。

確か・・・、

安岡先生は・・・、

後ろ姿が寂しいのはよくない・・・。

と述べられていたと思う・・・。

今の人たちの後ろ姿はどうであろうか・・・？

そして・・・、

私自身の後ろ姿はどうであろうか・・・？

そんなことを考えた・・・。

## 自製の徳・・・。

安岡先生も・・・、

谷口雅春先生も・・・、

「自製の徳」

ということを、力説しておられる・・・。

外の世界では・・・、

仕事などで・・・、

自分を制御しているが・・・、

家に帰ると・・・、

自制することが出来ない人が多い・・・、

ということを述べられている・・・。

多くの人は・・・、

外の世界で自分を抑えているのだから・・・、

家庭では、少し横暴になっても構わないと思っている・・・、

とのことだ・・・。

しかしながら・・・、

両先生とも・・・、

家庭の中でこそ・・・、

「自製の徳」が必要である・・・、

と述べられている・・・。

というのは・・・、

家庭内において・・・、

「自製の徳」がないと・・・、

本来、ゆっくりくつろげるはずの家庭が・・・、

火宅になってしまうということである・・・。

自分を振り返ってみても・・・、

外の世界では、気を使い、自制しているが・・・、

家に帰った途端に・・・、

横暴に・・・、



ばあちゃん・・・。

な・・・、

相棒・・・。

## ギンレイホール・・・。

就職してしばらく・・・、

神楽坂の近くに住んでいた・・・。

神楽坂を下って・・・、

飯田橋に出ると・・・、

ギンレイホールという映画館があった・・・。

二番館であった・・・。

休みのたびに・・・、

ギンレイホールに行った・・・。

## 「紅の豚」

「12人のやさしい日本人」

「マルセルの夏」

「マルセルの城」

などを観たことを憶えている……。

あれから……、

随分と長い年月が過ぎ去ったが……、

今でも、ギンレイホールは健在なのであろうか……？

時々思い出す……、

ギンレイホールのことを……。

## シモーヌ・ヴェイユ……。

シモーヌ・ヴェイユ……。

あの、天才数学者、アンドレ・ヴェイユの、実の妹である……。

シモーヌは、数学者ではなく……、

思想家・哲学者である……。

兄妹とも、運命に翻弄されたようである……。

まあ……、

第二次世界大戦というか……、

ナチスドイツに、というか・・・、

詳しくはわからないが・・・、

とにかく、波乱万丈の人生だったようだ・・・。

シモーヌは若い頃・・・、

「・・・兄があまりにも天才なんで、真剣に自殺を考えたこともあります・・・。」

というようなことも述べていたそうである・・・。

飲茶先生の本で読んだ・・・。

飲茶先生・・・、

勝手に引用して申し訳ありません・・・。

それはそれとして・・・、

シモーヌの最後は・・・、

決して幸福ではなかった・・・。

食べることを拒み・・・、

餓死したようである・・・。

理由はわからない・・・。

あの、天才数学者、ゲーデルの最後に似ている・・・。

シモーヌは・・・、

結果的には・・・、

自ら餓死を選んだ・・・、

とするならば・・・、

自ら死を選んだことになるのであろう・・・。

ということは・・・、

「・・・兄が天才すぎて、真剣に自殺を考えたこともあります・・・。」

という自分自身の言葉を・・・、

実行してしまったのではあるまいか・・・？

私には・・・、

何となく・・・、

そう思ってしまう・・・。

シモーヌ嬢・・・、

安らかに・・・。

風が雲をよび、雲が雨を降らす・・・。

若い頃・・・、

工事現場で・・・、

ガードマンのバイトをしていた・・・。

ガードマンと言っても・・・、

交通誘導の警備員である・・・。

現場の人たちは・・・、

警備員のことを・・・、

ガードマンと呼んでいた・・・。

工事現場は楽しかったが・・・、

大変なこともある・・・。

車は突っ込んでくるし・・・、

ドライバーから怒鳴られる・・・。

そして・・・、

当然のことながら・・・、

夏は暑く・・・、

冬は寒い・・・。

夏にはよく思ったものである・・・、

「・・・ああ・・・、雨降らないかなあ・・・。」

・・・と・・・。

雨が降れば・・・、

涼しくなるし・・・、

場合によっては・・・、

工事が中止になる・・・。

そして・・・、

ある日気づいた・・・。

風が吹き始め・・・、

風が強くなると・・・、

空が曇ってきて・・・、

そして・・・、

雨が降ってくる・・・、

・・・と・・・。

私は、気象予報士ではないので・・・、

正確ではない・・・。

しかしながら・・・、

経験上・・・、

そんな感じだった・・・。

工事現場では・・・、

色んな人々に出会った・・・。

様々な事情を抱えながらも・・・、

ひたむきに働いておられた・・・。

私にとっては・・・、

いい社会勉強になった・・・。

あれから・・・、

随分と長い年月が流れた・・・。

工事現場で出会った方々は・・・、

今でも元気でおられるのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

工事現場での仕事と・・・、

工事現場で出会った人々のことを・・・。

ビーバー・・・。

学生時代・・・、

一人の親友がいた・・・。

彼は仲間から・・・、

ピーパーと呼ばれていた・・・。

ちなみに私は・・・、

北京原人と呼ばれていた・・・。

彼とは、よく一緒に遊んだ・・・。

ゲームセンター・・・、

バッティングセンター・・・、

下宿でのファミコン・・・、

飲み会・・・、

等等・・・。

そして・・・、

半永久的に続くかと思われた・・・、

青春時代は過ぎ去り・・・、

皆社会に出た・・・。

彼は、電力会社に就職した・・・。

時々連絡を取りながらも・・・、

月日は流れた・・・。

そして・・・、

あの、大震災・・・。

夜になり・・・、

彼に電話をかけたが・・・、

つながらなかった・・・。

imodeの、行方不明者安否確認サイトのようなもので検索してみたが・・・、

見つからなかった・・・。

そして・・・、

翌日・・・、

彼に電話がつながった・・・。

やっと安心した・・・。

彼と彼の家族も無事で・・・、

自宅も大した損害はなかったそうだ・・・。

ただ・・・、

緊急対策本部で・・・、

大変慌ただしいようだった・・・。

あれから・・・、

随分と長い月日が流れ・・・、

大震災のことを・・・、

忘れかけている・・・。

しかしながら・・・、

忘れてはならないことである・・・。

大学卒業以来・・・、

彼とは、直接会ったことはない・・・。

電話で話すのみであった・・・。

そんな彼は・・・、

役職定年を迎えるとのことである・・・。

時々・・・、

彼のことを・・・、

ビーバーのことを思い出す・・・。

今年は・・・、

旅行も兼ねて・・・、

彼に会いに行ってみようか・・・。

弁護士になった男・・・。

学生時代・・・、

一人の親友がいた……。

大学に入って……、

最初の頃に出会った男である……。

彼は……、

パンダに似ていると言われていた……。

身長180センチ以上……、

まあまあイケメンで……、

人柄も良かった……。

高校時代には……、

野球部で頑張っていたということである……。

これと言った欠点のない男であった……。

同じ、司法試験受験サークルに所属していたので……、

一緒に勉強したりもした……。

彼は……、

東京の実家から通っていたので……、

飲み会は……、

程々にしていた……。

そして……、

同じ大学の・・・、

教授の娘さんと交際していた・・・。

大学卒業後・・・、

彼は、司法浪人の道を選んだ・・・。

当時としては・・・、

珍しいことではなかった・・・。

数年後・・・、

彼は、司法試験に合格し・・・、

司法修習を終え・・・、

弁護士となった・・・。

そして、めでたく彼女と結婚して・・・、

三人の子供さんを授かった・・・。

それから彼には・・・、

随分とお世話になった・・・。

私の、くだらない相談にも・・・、

付き合ってくれた・・・。

しかし、である・・・。

コロナ禍の頃・・・、

些細なことで・・・、

仲違いをしてしまった・・・。

それ以来連絡を取っていない・・・。

その責任は、全部私にある・・・。

今でも、そのことは後悔している・・・。

彼は・・・、

私のことを・・・、

許してくれるであろうか・・・？

それとも・・・、

このまま・・・、

縁が切れてしまうのだろうか・・・？

思い切って・・・、

彼の弁護士事務所を訪ねてみようか・・・？

時々思い出す・・・、

弁護士になった男のことを・・・。

## 県庁マンになった男・・・。

大学時代・・・、

一人の親友がいた・・・。

彼は・・・、

プロレスラーの、サンダー杉山さんに似ていたことと・・・、

大学に、杉山という、法学の先生がおられたことから・・・、

「サンダー杉山の法学」

と呼ばれていた・・・。

そかしながら・・・、

ある夜、仲間との飲み会の席で・・・、

彼が・・・、

「・・・俺は、お前らに、サンダー杉山の法学って言われるのが嫌なんだよー・・・。」

・・・と・・・、

大声で叫んで・・・、

泣き出してしまった・・・。

それには、皆面食らった・・・。

それからというもの・・・、

彼のことを・・・、

「サンダー杉山の法学」

と呼ぶものはいなくなった・・・。

そして・・・、

またたく間に・・・、

大学生活は過ぎ去った・・・。

卒業後・・・、

彼は・・・、

故郷の県庁マンになった・・・。

仕事は大変ながらも・・・、

充実しているようであった・・・。

彼とは・・・、

10年に一回のスパンで・・・、

ふたり旅をしていた・・・。

しかし・・・、

・・・、

である・・・。

コロナ禍の頃・・・、

些細なことで・・・、

仲違いをしてしまった・・・。

それ以来、連絡を取っていない・・・。

彼は今でも・・・、

怒っているのだろうか・・・？

怒っているのであらうなあ・・・、

・・・たぶん・・・。

一体・・・、

私はどうすればいいのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

県庁マンになった男のことを・・・。

いや・・・、

「サンダー杉山の法学」

のことを・・・。

## マラソン好きだった男・・・。

学生時代・・・、

一人の友人がいた・・・。

同じサークルに所属していた・・・。

飲み会にもよく行った・・・。

彼と私は、出身地が近いということ、

兄弟一気というものをやらされた・・・。

肉じゃがを・・・、

一気食いするのである・・・。

出身地が近いというだけで・・・、

兄弟一気とは・・・、

間抜けである・・・。

しかも・・・、

肉じゃがを一気食いとは・・・。

そういうことに嫌気が差したからかどうか分からないが・・・、

彼はサークルをやめた・・・。

高校時代、軸上部で・・・、

マラソンをやっていたということだ・・・、

また、マラソンに打ち込みたいとのことであった・・・。

まあ・・・、

それが正解だったのであろう・・・。

そして・・・、

大学を卒業・・・。

彼とは・・・、

音信不通である・・・。

彼は今でも・・・、

元気でいるのであろうか・・・？

そして・・・、

今でも・・・、

走り続けているのであろうか・・・？

また・・・、

兄弟一気や・・・、

肉じゃが一気のことを・・・、

憶えているのであろうか・・・？

まあ・・・、

思い出したくないであろうなあ……。

時々思い出す……、

マラソン好きだった男のことを……。

ペンギンと呼ばれた男……。

学生時代……、

サークルに……、

一人の男がいた……。

彼は……、

ペンギンと呼ばれていた……。

私は、彼がペンギンに似ているとは思わなかった……。

しかしながら……、

周りの男は……、

彼を、ペンギンと呼んで……、

バカにしていた……。

彼は……、

疎外感を感じたのであろう・・・。

まもなく、サークルをやめた・・・。

あれから随分と長い年月が経過した・・・。

彼は今でも元気でいるのであろうか・・・？

そして、なにより・・・、

サークルの仲間のことを・・・、

恨めしく思っているのであろうか・・・？

今となっては、謎である・・・。

時々思い出す・・・、

ペンギンと呼ばれた男のことを・・・。

## 他大から来ていた女子学生・・・。

学生時代・・・、

他大から来ていた女子学生がいた・・・。

真面目で、可愛い人であった・・・。

しかしながら・・・、

である……。

彼女が、初めて我々のサークルを訪れた時……、

な……、

なんと……、

馬鹿な男どもが……、

彼女を見て……、

ゲラゲラ笑い出した……。

私はうろたえた……。

と同時に……、

怒りを覚えた……。

「……何笑ってんだ、このバカどもが……。」

……と……、

思ったが……、

言えなかった……。

彼女は傷ついたに違いない……。

それからも……、

彼女は、サークルに通っていた……。

多分、居心地はよくなかったに違いない……。

そして・・・、

6 大学野球・・・。

信濃町の、歩道橋の下で待ち合わせることにした・・・。

しかしながら・・・、

私は・・・、

致命的な・・・？

ミスを犯した・・・。

歩道橋と言うつもりが・・・、

横断歩道の下・・・、

と言ってしまったのである・・・。

まあ・・・、

これは、ただの言い間違いであるのだが・・・、

後々、サークルの馬鹿な男どもから、批判されることになった・・・。

兎にも角にも・・・、

大学野球の対抗戦が始まった・・・。

私は、彼女を何とかフォローしようと、一生懸命であった・・・。

しかし・・・、

それが裏目に出たのかもしれない・・・。

彼女はあんまり楽しそうではなかった・・・。

そして・・・、

試合終盤・・・、

彼女のことを笑った男の一人が・・・、

突然、鼻血を出し始め・・・、

慶應病院に直行することになった・・・。

天罰観面と言ったところであろうか・・・？

試合が終わったあとの、祝勝会には、彼女は参加しなかった・・・。

その後・・・、

彼女は、サークルに来なくなった・・・。

それから・・・、

随分と長い年月が過ぎ去った・・・。

彼女は、今でも元気でいるのであろうか・・・？

そして何より・・・、

我々サークルのメンバーのことを・・・、

恨めしく思っているのではあるまいか・・・？

とにかく・・・、

彼女が、幸せで・・・、

活躍していることを祈っている……。

時々思い出す……、

他大からサークルに通っていた女子学生のことを……。

それにしても……、

世の男どもは……、

本当に……、

馬鹿ばかりであるなあ……。

## 田舎そば……。

東京に出て……、

驚いたことがいくつかあるが……、

そばに、驚いた……。

そばが白く、つゆが黒かった……。

地元では……、

そばは、黒っぽく……、

つゆは、だしでとってあるので・・・、

黒くはなかった・・・。

そして・・・、

就職してすぐに・・・、

ベテランの女性から言われた・・・、

「・・・ああ、あなたの言ってるのは、田舎そばね・・・。」

「・・・田舎そば・・・、ですか・・・。」

そんな感じだった・・・。

なんでも・・・、

殻ごとひいてあるのが、田舎そばで・・・、

東京のそばは・・・、

殻を捨ててあるとか・・・。

詳しいことはわからないが・・・、

何か、そんな感じだった・・・。

しかしながら・・・、

私は、田舎そばが好きである・・・。

なんか、懐かしい感じがする・・・。

そう思うのは、私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

## 畑仕事・・・。

久しぶりに・・・、

畑仕事をした・・・。

祖母が元気な頃は・・・、

二人でやっていたのであるが・・・、

今は一人である・・・。

暑くて・・・、

少し疲れた・・・。

祖母は・・・、

一体・・・、

どんな気持ちで・・・、

畑仕事をしていたのであろうか・・・？

畑に行くたびに・・・、

そう思う・・・。

ばあちゃんが・・・、

懐かしいなあ・・・。

## 曾祖父・・・。

祖母が・・・、

生前、よく語っていた・・・。

曾祖父は・・・、

お人好しだったが・・・、

仕事が好きではなく・・・、

酒ばかり飲んでいたそうである・・・。

戦死した祖父たちが・・・、

闇焼酎を買ってきて・・・、

飲ませていたそうである・・・。

その上・・・、

お人好しが過ぎたのか・・・、

保証人倒れになり・・・、

土地を随分取られたらしい・・・。

しかしながら・・・、

私は・・・、

曾祖父が好きである・・・。

少なくとも・・・、

憎めない存在である・・・。

まあ・・・、

一度も会ったことがないのではあるが・・・。

時々考える・・・、

怠け者だが・・・、

お人好しだった・・・、

曾祖父のことを・・・。

びんた・・・。

子供の頃・・・、

祖母から・・・、

毎日のように・・・、

びんたされていた・・・。

高校では・・・、

剣道の先生から・・・、

週に一発のペースで・・・、

びんたされていた・・・。

サボったら・・・、

職員室で・・・、

何十発も、往復ビンタされた・・・。

高校三年間で・・・、

200発くらい、ビンタされたと思う・・・。

今であれば・・・、

ニュースになることは、必定である・・・。

しかしながら・・・、

80年代は、のどかだった・・・。

ビンタや、ゲンコツ・・・、

まあ・・・、

今で言うところの、体罰は・・・、

日常的に行われていた・・・。

今では問題になるはずの体罰が・・・、

昔は、それほど問題にならなかったのには理由があると思う・・・。

昔の人は・・・、

手加減ということを知っていたのである・・・。

しかしながら・・・、

現在では・・・、

手加減ということを知らないから・・・、

子供さんを死なせたりするのである・・・。

嘆かわしいことである・・・。

要は・・・、

現代日本には・・・、

真っ当な大人がいないのである・・・。

本当に・・・、

残念なことである・・・。

それにしても・・・、

ばあちゃんや・・・、

剣道の先生の・・・、

ピンタが・・・、

懐かしいものであるなあ・・・。

## 立ち向かう人の心は鏡なり・・・。

「立ち向かう人の心は鏡なり。己が姿をうつしてや見ん。」

とは・・・、

黒住教祖の言葉らしい・・・。

まことに、金言である・・・。

自分がイライラしていると・・・、

相手がイライラしているように感じる・・・。

自分が、優しい心を持っていると・・・、

相手も優しい心を持っているように感じる・・・。

要は・・・、

自分の心を整えることが肝要なのである・・・。

最近・・・、

何となく・・・、

イライラすることが多いので・・・、

自分自身・・・、

反省しているところである・・・。

それにしても・・・、

自分の心を整えるということは・・・、

難しいものであるなあ・・・。

自分の心を整えることができれば・・・、

全てが整うのであろう・・・。

三界は唯心の所現であるからなあ・・・。

## 祖母の一番長い日・・・。

祖父は・・・、

1945年・・・、

昭和20年8月15日・・・、

終戦の日に・・・、

旧満州大陸で・・・、

旧ソ連軍との戦闘で・・・、

戦死した・・・。

終戦の日・・・、

祖母は喜んだに違いない・・・。

やっと戦争が終わって・・・、

祖父が帰ってくる・・・、

と・・・、

思ったであろうからである・・・。

しかしながら・・・、

祖父は帰ってこなかった・・・。

しばらく時間が経ってから・・・。

祖父の戦死の知らせが届いたのだと思う・・・。

秋ごろであろうか・・・。

その時祖母は誓ったに違いない・・・。

自分が祖父の代わりになり・・・、

強く生きて・・・、

家を守っていかう・・・、

・・・と・・・。

これは私の勝手な想像である・・・。

ただ・・・、

全く根拠がないわけではない・・・。

祖母は生前・・・、

「・・・秋は寂しいから・・・、あまり好きじゃない・・・。」

と、よく言っていたからである・・・。

終戦後の、祖父の戦死の知らせが・・・、

秋だったのではあるまいか・・・。

だから・・・、

秋になると・・・、

祖父の戦死の知らせを思い出し・・・、

寂しさが募ったのではあるまいか・・・？

とにかく・・・、

強いばあちゃんだった・・・。

ばあちゃん・・・、

あ疲れ様・・・、

安らかに眠ってください・・・。

## 自己弁解をやめよう・・・。

一切の・・・、

自己弁解をやめようと思う・・・。

要は・・・、

言い訳することを・・・、

やめようと思う・・・。

私は・・・、

ついつい・・・、

言い訳しがちである・・・。

言い訳すると・・・、

自己弁解すると・・・、

弱くなる気がする・・・。

それとは逆に・・・、

一切の・・・、

自己弁解・・・、

言い訳を・・・、

やめると・・・、

少しは・・・、

強くなれるような・・・、

なんだか・・・、

そんな気がする・・・。

そう思うのは・・・、

気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなはずはあるまい・・・。

## とある後輩・・・。

学生時代・・・、

サークルに・・・、

一人の後輩がいた・・・。

身長180センチ以上・・・、

そこそこイケメンで・・・、

性格も良かった・・・。

スキー旅行に行った夜などは・・・、

遅くまで・・・、

水道管ゲームをしたものである・・・。

まあ・・・、

少しユニークな、カードゲームだったが・・・。

大学卒業後・・・、

彼は、大学院に進学した・・・。

しかしながら・・・、

彼は、元気を失くしているという話を・・・、

友人から聞いた・・・。

大学卒業後・・・、

彼とは会っていない・・・。

それから・・・、

随分と長い年月が過ぎ去った・・・。

彼は今でも元気であるのだろうか・・・？

というか・・・、

元気を取り戻してくれたのであろうか・・・？

そして、何より・・・、

今でも・・・、

水道管ゲームをやっているのでしょうか・・・？

時々思い出す・・・、

水道管ゲームが好きだった後輩のことを・・・。

ムーンライト・シャドウと・・・ガロア・・・。

マイク・オールドフィールドの・・・、

ムーンライト・シャドウの・・・、

ミュージックビデオを観ると・・・、

ガロアを連想する・・・。

まあ・・・、

少し昔の曲なので・・・、

プロモーションビデオなのか・・・？

それはどうでもいいとして・・・、

ビデオの・・・、

銃での決闘のシーンは・・・、

あの天折の天才数学者・・・、

エヴァリスト・ガロアの最後を想起させる・・・。

そう思うのは・・・、

私だけであろうか・・・？

天才音楽家、マイク・オールドフィールドは・・・、

天才数学者、ガロアを意識していたのであろうか・・・？

私のような凡人には・・・、

永遠の謎である・・・。

しかしながら・・・、

ムーンライト・シャドウのミュージックビデオを観るたびに・・・、

ガロアを思い出してしまう・・・。

それは、私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

最後まで耐え忍ぶものは救われる・・・。

「最後まで耐え忍ぶものは救われる。」

とは・・・、

イエス様の言葉であっただろうか・・・。

谷口雅春先生の著書で読んだ気がするのだが・・・、

調べてみる気にならなかった・・・。

かといって・・・、

ネットで検索するのも違うような気がする・・・。

とにかく・・・、

そんな言葉を読んだ記憶がある・・・。

最後まで耐え忍べば・・・、

救われるのだ・・・。

そうだ・・・、

最後の最後まで・・・、

耐え忍ぼう・・・。

そうすれば・・・、

救われるのであるから・・・。

親友・・・。

親友・・・、

とは・・・、

一体・・・、

何であろうか・・・？

そこで私は考えた・・・。

親友とは・・・、

青春の思い出を、共有している友人ではあるまいか・・・？

・・・と・・・。

これは・・・、

私の、ただの思いつきではあるが・・・、

それほど間違っているとは思わない・・・。

たぶん・・・、

いや・・・、

きつと・・・、

そうに違いない・・・。

芥川龍之介・・・の・・・詩集・・・。

先日・・・、

ネットニュースで・・・、

芥川龍之介の・・・、

詩集が・・・、

発見されたと・・・、

知った・・・。

芥川龍之介であれば・・・、

詩集があっても・・・、

別段不思議ではなからう・・・。

今まで発見されなかったことのほうが・・・、

よっぽど不思議である・・・。

そう思うのは・・・、

私の気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

龍神様・・・。

十数年前・・・、

バイクで走っていた・・・。

山道を・・・、

ずんずん走っていった・・・。

すると・・・、

以外なところに・・・、

鳥居があった・・・。

しかしながら・・・、

神社らしきものは見当たらなかった・・・。

不思議に思った・・・。

すると・・・、

な・・・、

なんと・・・、

鳥居をくぐると・・・、

石段が・・・、

下に向かって続いていた……。

私は、恐る恐る下っていった……。

すると……、

本殿があった……。

そこには……、

龍神様が祀ってあった……。

不思議な感じがした……。

それ以来……、

毎月、参拝している……。

お導きだったのであろうか……？

今でも謎である……。

おんめいきやしやに、えいそわか……。

かくりよのおおかみ、あわれみたまえ、めぐみたまえ……。

汝の信仰、汝を癒せり、立ちて歩め……。

イエス様は……、

おっしゃったそうだ・・・。

「・・・汝の信仰、汝を癒せり、立ちて歩め・・・。」

・・・と・・・。

それで・・・、

続々と・・・、

病人が治ったそうである・・・。

イエス様は・・・、

信仰・・・、

いや・・・、

信念の力の凄さを・・・、

現しになったとのことであろうか・・・？

それにしても・・・、

英語版聖書では・・・、

「立ちて歩め」

のところが・・・、

g o : i n peace・・・、

と表記されている・・・。

その部分の日本語訳で・・・、

「ごころやすかれ・・・」。

と訳されているものもある・・・。

翻訳というものは・・・、

難しいものであるなあ・・・。

本題からそれた・・・。

イエス様は・・・、

念の力の恐ろしさを教えてくださってもいる・・・。

砂漠でのどが渴いて・・・、

無花果の木があったので・・・、

実を食べて、喉を潤そうと思ったらしい・・・。

ところが・・・、

その無花果には・・・、

実がなっていないかった・・・。

そこで・・・、

イエス様は怒って・・・、

もう二度と実をつけるな・・・。

というようなことを、おっしゃったらしい・・・。

すると・・・、

その無花果は・・・、

たちまち枯れてしまったそうである・・・。

うらむ・・・、

念の力というものは・・・、

素晴らしくもあり・・・、

恐ろしいものでもあるなあ・・・。

## 梅干し番茶・・・。

安岡先生によれば・・・、

人間の体というものは・・・、

酸性に傾いてしまうそうである・・・。

そうになると・・・、

体調不良・・・、

病気などになるらしい・・・。

そこで・・・、

梅干し番茶を飲むのがいいということである・・・。

要は・・・、

酸性に傾いた体を・・・、

アルカリ性の飲食物で・・・、

中和する・・・、

ということである・・・。

最近・・・、

梅干し番茶・・・、

飲んでないなあ・・・。

また・・・、

飲み始めよう・・・。

## 忙中閑あり・・・。

安岡先生の著書で読んだ・・・。

忙中閑あり・・・。

死中活あり・・・。

苦中楽あり・・・。

壺中天あり・・・。

どんなときでも・・・、

活路を見出すことができるというところであらう・・・。

## 恍惚感を警戒せよ・・・。

谷口雅春先生は述べられている・・・。

恍惚感や・・・、

陶醉感を警戒せよ・・・、

・・・と・・・。

柔道で絞め落とされるときは・・・、

恍惚感を感じるが・・・、

意識を取り戻すときには・・・、

苦しみを感じる・・・、

・・・と・・・。

とにかく・・・、

調子のいい時には・・・、

警戒するほうがいい……。

まさしく……、

好事魔多し……、

である……。

順調に行っている時ほど……、

落とし穴がある……。

誰もが経験していることであろう……。

人生……、

苦しいくらいがちょうどいい……。

そう思うのは気のせいであろうか……？

いや……、

そんなことはあるまい……。

ガロアとシュバリエ、そして、アーベルとクラルレ……。

夭折の天才数学者……、

ガロアには……、

シュバリエという親友がいた・・・。

同じく・・・、

夭折の天才数学者・・・、

アーベルには・・・、

クラルレという親友がいた・・・。

シュバリエは・・・、

ガロアの研究成果を・・・、

世に広めるために尽力した・・・。

クラルレは・・・、

アーベルの研究成果を・・・、

世に広めるために尽力した・・・。

素晴らしき友情である・・・。

飲茶先生は、著書の中で述べておられた・・・。

だいたいこんなようなことであつたと記憶している・・・。

「・・・ガロアもアーベルも、最も不幸な天才数学者とされている。しかしながら、死の直前になって、全てをたくせることのできる親友がいる・・・。はたして、ガロアもアーベルも、本当に不幸であつたのだろうか・・・？ 死の直前になって、全てをたくせることのできる親友がいるということは、本当は、幸福だったのではあるまいか・・・？」

私も同感である・・・。

現代を生きる我々に・・・、

死の直前になって、全てをたくせることのできる親友がいるのであろうか……？

殆どの人にはいないであろう……。

私にもいない……。

飲茶先生のおっしゃるとおり……、

ガロアもアーベルも……、

幸福であったのだ……。

そう思うのは……、

私だけであろうか……？

いや……、

そんなことはあるまい……。

バスガイドさんだった女性……。

職場に……、

元バスガイドさんだった、大先輩がおられる……。

先日……、

こんなことを言われた……。

「・・・嫌な人や、合わない人とは、挨拶だけしてればいいのよ・・・。あとは、話さなくていいのよ・・・。」  
・・・と・・・。

私は、妙に納得した・・・。

嫌な人とは・・・、

挨拶だけしてればいいのだなあ・・・。

大先輩の話というものは・・・、

含蓄のあるものである・・・。

## 帝大卒のクラスメイト・・・。

少し前に・・・、

クラスメイトから・・・、

連絡があった・・・。

夏に・・・、

クラス会をする・・・、

とのことであった・・・。

彼は、帝大卒の・・・、

優しい男である・・・。

高校時代は・・・、

東大を目指して・・・、

よく一緒に勉強したものである・・・。

二人とも・・・、

東大には受からなかった・・・。

しかしながら・・・、

青春の思い出を共有している・・・。

8月のクラス会が・・・、

楽しみである・・・。

## 水島の戦い・・・。

17年ほど前・・・、

日本各地で・・・、

皆既日食が観測された・・・。

その時、ネットで話題になったのが・・・、

水島の戦いである……。

私はその時初めて知った……。

なんでも……、

あの、源平合戦で……、

唯一……、

平家が源氏に勝利した戦だそうだ……。

何故、平家が勝ったかという……、

その時、皆既日食が起こったそうである……。

平家は……、

暦を持っていたので……、

皆既日食が起こることを、予め知っていた……。

一方……、

源氏は、何kも知らなかった……。

そこで、皆既日食に恐れおののいて……、

総崩れになったそうである……。

まあ……、

これは……、

17年ほど前に……、

ネットで、チラ見した程度なので・・・、

正確ではない・・・。

それにしても・・・、

水島って・・・、

どのあたりなのであろうか・・・？

ネットで検索すれば・・・、

すぐわかると思うのだが・・・、

何となく・・・、

検索する気になれない・・・。

謎は・・・、

謎のままがいい・・・。

そう思うのは・・・、

私だけであらうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

## チャーチルの・・・本当の敵・・・？

随分と昔のことなのだが・・・、

小林秀雄の著書を読んでいたら・・・、

確か・・・、

こんな文書が書かれていた・・・。

「・・・果たして、チャーチルの本当の敵は、ヒトラーだったのであろうか・・・。」

何となくこんな感じだった・・・。

どの著書に書いてあったのか・・・、

調べようと思ったが・・・、

面倒くさいのでやめにした・・・。

とかくそんなことが書いてあった・・・。

最初読んだ時・・・、

小林は・・・、

チャーチルの本当の敵は・・・、

ソ連の、スターリンだと言いたいのだろうと思った・・・。

それは今でも変わらない・・・。

しかしながら・・・、

である……。

第二次大戦終結後の、冷戦時代に突入してからなら、そうであろうが……、

第二次大戦中……、

ヨーロッパで……、

ヒトラー率いる、ナチスが暴虐の限りを尽くしているまっただ中では……、

チャーチルの、当面の敵は、ヒトラーであることは、自明の理である……。

チャーチルに……、

第二次大戦終了後のことまでも予想せよというのは……、

いくら何でも、酷な話である……。

たとえ……、

本当の敵が……、

スターリンであったとしても……。

このことだけは……、

小林先生に、あの世で聞いてみたいものである……。

そう思うのは、私だけであろうか……？

いや……、

そんなことはあるまい……。

## コンピュータの間違いではなく・・・人間の間違い・・・？

就職してすぐ・・・、

上司から、こんなことを言われた・・・。

「・・・コンピュータは、人間の作ったプログラムの通りに動く。だから、間違いがあったとすれば、それは、コンピュータの間違いではなく、人間の間違いだ・・・。」

とにかく、そんなことを言われた・・・。

その時は・・・、

素直に受け入れられなかったが・・・、

今思えばそうである・・・。

コンピュータは、プログラムの通りに動く・・・。

バグがあつたら・・・、

それは、プログラマの責任である・・・。

そして・・・

コンピュータは、オペレーションの通りに動く・・・。

間違つたら・・・、

オペレータの責任である・・・。

とにかくコンピュータは、忠実である・・・。

間違いは・・・、

人間にある・・・。

何となく・・・、

2001年宇宙の旅・・・、

・・・と・・・、

ターミネーターを思い出した・・・。

そんなことにならないことを祈っているのは・・・、

私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

## 上司の灰皿・・・。

就職して・・・、

新人の頃は・・・、

上司の灰皿を交換したり・・・、

お茶汲みしたり・・・、

掃除をしたりするの・・・、

仕事のうちであった・・・。

今では考えられないことではあるが・・・、

30年ほど前は・・・、

デスクでタバコを吸うことは・・・、

日常的なことであった・・・。

それはともかく・・・、

その上司に言われたことがある・・・。

「・・・大学までは、お金を払って行っているから、お客さんだ。だが、仕事は違う。仕事は、お金を稼ぐためにやっているんだ・・・。」

何となくそんなことを言われた・・・。

その時は・・・、

素直に受け取れなかったが・・・、

時が経つにつれ・・・、

身にしみてわかるようになった・・・。

その上司は・・・、

私のことが、あまり好きではなかったらしい・・・。

私も・・・、

その上司のことは・・・、

好きではなかった……。

しかしながら……、

その上司は……、

私が作った……、

ゴミプロを……、

少しは評価してくれた……。

私は、異動になり……、

彼は……、

総務庁にもどった……。

そして……、

私はまもなく、その職場を去った……。

それから、随分と長い年月が経過した……。

あの元上司は、今でも元気でおられるのであろうか……？

時々思い出す……、

総務庁から出向してきていた、元上司のことを……。

ランニングが好きだった先輩・・・。

最初の職場に・・・、

一人の先輩がいた・・・。

彼が・・・、

手取り足取り・・・、

私に仕事を教えてくれた・・・。

とても優しい先輩であった・・・。

彼は・・・、

昼休みに・・・、

毎日・・・、

皇居のお堀の周りを・・・、

走っていた・・・。

所謂、皇居ランナーであった・・・。

私は不思議に思ったので、聞いてみた・・・。

「毎日、昼休みに走ったら、きつくはないですか・・・？」

・・・と・・・。

すると、彼は答えた・・・。

「・・・こんな感じで・・・、ストレスの多い部署でしょ・・・。だから・・・、ストレス解消のためだよ・・・。」

と答えた・・・。

たしかに、ストレスフルな部署であった・・・。

素人であるにもかかわらず・・・、

メインフレーム用のプログラムを書いたり・・・、

オペレーションをする部署であった・・・。

そして・・・、

他の部署でも・・・、

また・・・、

他の組織の人も・・・、

お昼に・・・、

皇居のお堀の周りを走っている人は、多いようであった・・・。

私も・・・、

彼も・・・、

異動になった・・・。

そしてまもなく・・・、

私はその職場を去った・・・。

それから・・・、

随分と長い年月が経過した・・・。

あの先輩は、今でも元気でおられるのであろうか・・・？

そして・・・、

今でも、皇居のお堀の周りを走っておられるのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

ランニングが好きだった先輩のことを・・・。

おとぼけ・・・。

学生時代・・・、

大学の近くに・・・、

「おとぼけ」

という、定食屋があった・・・。

トンカツや、チキンカツなど・・・、

揚げ物がメインのお店であった・・・。

他にも・・・、

A定食・・・、

B定食・・・、

じゃんじゃん焼き・・・、

などがあった・・・。

じゃんじゃん焼きとは・・・、

ただの生姜焼き定食であった・・・。

私は、週に3回以上通っていた・・・。

ある日・・・、

祖母が上京してきた・・・。

そこで私は・・・、

祖母を空港まで迎えに行って・・・、

靖国神社を中心に・・・、

都内を案内した・・・。

そして・・・、

祖母が、お腹が空いたのでなにか食べたい・・・、

と言ったので・・・、

「おとぼけ」

に連れて行った・・・。

私は・・・、

チキンカツ定食か、トンカツ定食を食べた・・・。

祖母は、カツカレーを食べた・・・。

しかしながら・・・、

学生街の食堂は、量が多いのである・・・。

さすがの祖母も・・・、

カツカレーを全部食べることが出来なかったので・・・、

残りを、私に食べてくれ、と言った・・・。

しかし・・・、

流石に私も食べることが出来なかった・・・。

そんな想い出のある食堂・・・、

それが・・・、

「おとぼけ」

である・・・。

まあ・・・、

どうでもいい話ではあるのだが・・・。

そんな祖母も・・・、

9年前に、天へと旅だった・・・。

祖母は・・・、

「おとぼけ」

で食べた・・・、

カツカレーのことを・・・、

憶えていたのであろうか・・・？

今となっては、謎である・・・。

しかしながら・・・、

謎は・・・、

謎のままがいい・・・。

時々思い出す・・・、

「おとぼけ」

に・・・、

祖母と二人で行った・・・、

あの夏の日のことを・・・。

小さな泥棒・・・。

学生時代・・・、

「小さな泥棒」

という映画を観た・・・。

トリュフォーの遺作である・・・。

とはいえ・・・、

脚本がトリュフォーという人で・・・、

監督は、別の人であった・・・。

まあ・・・、

そのころ・・・、

すでに・・・、

トリュフォーは、この世の人ではなかったので・・・、

当然といえば、当然のことである・・・。

主演は・・・、

シャルロット・ゲンスブルであった・・・。

シャルル・ゲンズブルと、ジェーンバーキンの娘であったと思う・・・。

とてもかわいい人であった・・・。

しかしながら・・・、

映画そのものは・・・、

意味が良くわからなかった・・・。

ただ・・・、

青春時代に、あの映画を観ることが出来たのは・・・、

幸運だったと懐う・・・。

シャルロット・ゲンスブールは・・・、

今どうしておられるのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

「小さな泥棒」

のことを・・・。

バー・フライ・・・。

学生時代・・・、

ミッキー・ロークの大ファンだったので・・・、

出演映画は、ほとんど観た・・・。

その中でも・・・、

異色作だったのが・・・、

「バー・フライ」

である・・・。

ただの飲んだくれを描いた作品で・・・、

どうしようもない駄作だと思った・・・。

ただ・・・、

確か・・・、

あの・・・、

フェイ・ダナウェイが共演していたと思う・・・。

それだけが・・・、

取り柄だと思っていた・・・。

しかしながら・・・、

時が流れて・・・、

「バー・フライ」

は・・・、

とんでもない名作なのでは・・・、

と思うようになった・・・。

人気絶頂だった、ミッキー・ロークが・・・、

ろくでなしの、飲んだくれを演じていたのである・・・。

今思えば・・・、

凄みを感じる・・・。

そう思うのは・・・、

気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

## マイケル・J・フォックス・・・。

マイケル・J・フォックスを初めてみたのは・・・、

高校時代である・・・。

あの・・・、

「バックツィーザフューチャ」

を観たのである・・・。

そして・・・、

大学時代には・・・、

続編も・・・。

マイケルは・・・

今では・・・、

パーキンソン病を患っている・・・。

しかしながら・・・、

それでも・・・、

彼は・・・、

懸命に生きている・・・。

それこそが・・・、

マイケル・J・フォックスが・・・、

真の大スターである所以である・・・。

彼の著書・・・、

「ラッキーマン」

も・・・、

図書館で読んだ・・・。

彼がまた・・・、

銀幕に復帰してくれるのを待っている・・・。

それは私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

## バケツ・・・。

最初の職場の・・・、

最初の部署での話である・・・。

そのころは・・・、

すでに、エアコンが完備されていたが・・・、

それから遡ること10年以上前は・・・、

事務室には、エアコンがなかったらしい・・・。

そこで、主任に聞いてみた・・・。

「・・・どうやって、暑さをしのいでたんですか・・・？」

「・・・バケツに、氷水を入れて、そこに足を入れて、暑さをしのいでいたんだ・・・。」

・・・、

「・・・そ・・・そうだったのですか・・・。」

そんな感じだった・・・。

私は・・・、

その時は、素直に受け入れることが出来なかった・・・。

( 本当にそんなことやっていたのであろうか・・・。 )

そう思っていた・・・。

しかしながら・・・、

今では、何となくわかる気がする・・・。

あれから随分と長い年月が過ぎ去った・・・。

あの主任は、今でも元気でおられるのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

元上司の主任のことを・・・。

子熊・・・。

先日・・・、

海辺をドライブしていた・・・。

そして・・・、

たこ焼きを買った・・・。

車を走らせていると・・・、

急に・・・、

尿意をもようしたので・・・、

車を止められそうな場所を探していた・・・。

すると・・・、

広い路肩か、狭い駐車場のようない場所があった・・・。

そこで・・・、

私は、車を止めようとした・・・。

すると・・・、

何か・・・、

不気味な物体を発見した・・・。

最初、熊のぬいぐるみかと思った・・・。

しかし・・・、

な・・・、

なんと・・・、

その物体・・・？

生き物・・・？

に・・・、

ハエがたかっていた・・・。

私は驚いて・・・、

車を止めずに・・・、

発信させた・・・。

しかしながら・・・、

あれは一体・・・、

何だったのでしょうか・・・？

子熊か・・・？

たぬきか・・・？

犬か・・・？

ぬいぐるみだったのか・・・？

あんなところに・・・、

子熊なんているのでしょうか・・・？

私は・・・、

恐怖と疑問を感じた・・・。

ネットで検索したが・・・、

良くわからなかった・・・。

そもそも・・・、

あれは・・・、

現実であったのでしょうか・・・？

錯覚か・・・、

白日夢であったのかもしれない・・・。

謎である・・・。

しかしながら・・・、

謎は・・・、

謎のままがいい・・・。

## 南東から来た男・・・？

学生時代・・・、

「南東から来た男」という映画を・・・、

レンタルビデオで観た・・・。

タイトルは間違っているかもしれない・・・。

だいたい以下のような感じだった・・・。

ある日、突然男がやって来た・・・。

彼は、自分は宇宙からやって来た・・・、

そして・・・、

地球の人々と、仲良くしたい・・・。

というようなことを話した・・・。

そして・・・、

当然のこと・・・？

かもしれないが・・・、

彼は、精神病院に連れて行かれて・・・、

治療が始まった・・・。

塗料は困難を極めたが・・・、

何とか成功し・・・、

彼は、自分は宇宙人ではなく、地球人である・・・、

と言うようになった・・・。

しかしながら・・・である・・・。

まもなく・・・、

国家の特殊な肩書の人 が来られて・・・、

彼は、本当の宇宙人だ・・・、

ということ を告げた・・・。

精神病院のスタッフは驚いて・・・、

あなたは本当に宇宙人だったのですね・・・、

というと・・・、

件の男は・・・、

笑いながら・・・、

何を冗談言っているんですか・・・、

私が宇宙人なわけ無いでしょう・・・、

私は地球人ですよ・・・、

と言った・・・。

なんとも、微妙なオチがある映画だった・・・。

今でも時々思い出すが・・・、

宇宙人って・・・、

本当にいるのであろうか・・・？

やっぱ・・・、

いるんじゃないのかなあ・・・？

そう思うのは、私だけであらうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

## オールドリッチ・リプスキー・・・。

学生時代・・・、

よく映画を観た・・・。

映画館にもよく行ったが・・・、

レンタルビデオは、毎晩見ていた・・・。

それで・・・、

少し変わった映画も観た・・・。

思い出深いのは・・・、

オールドリッチ・リプスキー監督の・・・、

「アデラ、ニック・カーター、プラハの対決」である・・・。

意味はよくわからないが・・・、

不思議で、面白い映画だった・・・。

確か・・・、

ニック・カーターという名探偵が・・・、

アデラ、という、巨大な花の化物と戦う・・・、

というような内容だったと思う・・・。

当時は・・・、

ベルリンの壁崩壊の直前で・・・、

まだ、東西冷戦時代であった・・・。

だからかもしれないが・・・、

東欧の映画には・・・、

ファンタジックで・・・、

面白い映画が結構あった・・・。

また観てみたいものであるなあ・・・、

「アデラ、ニック・カーター、プラハの対決」

・・・を・・・。

## マッチ工場の女・・・。

学生時代・・・、

「マッチ工場の女」

という映画を観た・・・。

当時・・・、

アキ・カウリスマキ監督と・・・、

ミカ・カウリスマキ監督が・・・、

日本でも人気が出始めていた・・・。

そこで私は・・・、

アキ・カウリスマキ監督の・・・、

「マッチ工場の女」

を観に行った・・・。

確か・・・、

渋谷での・・・、

単館上映だったと思う・・・。

しかしながら・・・、

私には・・・、

面白いとは思えなかった・・・。

マッチ工場で働く女性の、日常を描いたものであった・・・。

それと前後して・・・、

ミカ・カウリスマキ監督が・・・、

「ヘルシンキ・ナポリ」

というような映画を公開した・・・。

確か・・・、

主演が・・・、

マルチェロ・マストロヤンニだったと記憶している・・・。

こちらは面白そうではあったが・・・、

どういう訳か、観に行かなかった・・・。

それから・・・、

随分と長い年月が過ぎ去った・・・。

アキ・カウリスマキ監督と・・・、

ミカ・カウリスマキ監督は・・・、

どうしておられるのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

「マッチ工場の女」

のことを・・・。

ダーク・スター・・・。

学生時代・・・、

「ダーク・スター」

という映画を・・・、

レンタルビデオで観た・・・。

ジョン・カーペンターと・・・、

ダン・オバノンが制作した映画である・・・。

最初は・・・、

なんじゃこりゃ・・・、

と思ったが・・・、

テーマ曲の・・・、

「ベンズン・アリゾナ」

が名曲であったことと・・・、

ラストシーンが不思議であったことから・・・、

感動して・・・、

5回位繰り返し観た・・・。

私の最も好きな映画の1つである・・・。

あれあから・・・、

随分と長い年月が流れたが・・・、

今でも時々・・・、

「ダーク・スター」

と・・・、

「ベンズン・アリゾナ」

のことを思い出す・・・。

## 花火大会・・・。

子供の頃から・・・、

花火大会が好きであった・・・。

色んな花火大会に行った・・・。

その中で・・・、

最も思い出深いのは・・・、

恋人と行った花火大会ではなく・・・、

友達と行った花火大会でもない・・・。

祖母と二人で行った・・・、

田舎の・・・、

河川敷の花火大会である・・・。

私は、その頃大学生で・・・、

夏休みに・・・、

帰省していた・・・。

そして、どういう訳か・・・、

祖母と二人で・・・、

夜中、車に乗って・・・、

花火大会に行った・・・。

遠い昔のことなので・・・、

詳しいことは憶えていない・・・。

あれから・・・、

随分と長い年月が流れ・・・、

祖母はいなくなった・・・。

夏が近づくと・・・、

今でも時々思い出す・・・、

祖母と二人で・・・、

花火大会に行った・・・、

あの夏の夜の事を・・・。

## 祖母の弟・・・。

祖母には・・・、

弟さんがいた・・・。

一代で、建設会社を設立した、働き者であった・・・。

子供の頃、大工さんに弟子入りして・・・、

苦勞の末に、建設会社を設立した・・・、

本当に凄い人であった・・・。

彼は、釣りが好きであったので・・・、

よく釣りに連れて行ってもらった・・・。

メジナが、大量に釣れた・・・。

彼も・・・、

とっくの昔に・・・、

天へと旅だった・・・。

今でも・・・、

時々思い出す・・・、

祖母の、弟さんのことを・・・。

## 星新一先生・・・。

中学時代から・・・、

星新一先生の・・・、

ショートショートをよく読んだ・・・。

苦しい時には・・・、

本当に助けていただいた・・・。

先日・・・、

星新一先生の、伝記を買った・・・。

まだ。よく読んでいないが・・・、

星先生も・・・、

若い頃は・・・、

苦勞されたようである・・・。

最近は・・・、

星先生の本を読んでいないが・・・、

また・・・、

読んでみたいものであるなあ・・・。

## 不思議惑星キンザザ・・・？

学生時代・・・、

一風変わった映画を・・・、

レンタルビデオで観た・・・。

確か・・・、

「不思議惑星キンザザ」

というタイトルであったと思う・・・。

旧ソ連の映画であった・・・。

内容は憶えていないが・・・、

登場する、宇宙船？

のようなものが・・・、

不思議な動きをしていたことだけは・・・、

妙に、印象深く憶えている・・・。

当時の共産圏の映画は・・・、

少しばかりの、SFXを・・・、

効果的に使っていた・・・。

派手さはないが・・・、

不思議と面白かった・・・。

今でも時々思い出す・・・、

「不思議惑星キンザザ」

のことを・・・。

また観てみたいものであるなあ・・・。

血のつながりよりも、愛の深さを・・・。

最近思う・・・、

血のつながりよりも・・・、

地縁血縁よりも・・・、

もっと大切なものがある・・・、

・・・と・・・。

それは・・・、

愛の深さである・・・、

血のつながりがあっても・・・、

愛がなければ・・・、

そんなつながりは・・・、

無い方がマシである・・・。

そう思うのは・・・、

私の気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

## チョコとん・・・。

随分と昔の話ではあるが・・・、

学生時代・・・、

大学の近くに・・・、

チョコとん、で有名な店があった・・・。

チョコとん、とは・・・、

トンカツの中に、チョコレートが入っているものである・・・。

何とも不思議な食べ物である・・・。

トンカツの中に・・・、

チョコレートとは・・・。

なので・・・、

残念ながら・・・、

私は、一度も、そのチョコとんを食べたことはない・・・。

しかし、である・・・。

10年ほど前に・・・、

テレビで、そのチョコとんが紹介された・・・。

妙に懐かしくなって・・・、

ああ・・・、

やはり、食べておけばよかったなあ・・・、

との思いが強かった・・・。

やはり・・・、

ご当地名物は・・・、

一度は食べておくべきである・・・。

そう思うのは、私の気のせいであろうか・・・？

いや、そんなことはあるまい・・・。

アメリカ・・・宇宙船地球号の艦長・・・。

マルサスは・・・、

「人口論」の中で・・・、

宇宙船地球号・・・、

という言葉を使っている・・・。

私は思う・・・、

少なくとも・・・、

現在の、宇宙船地球号の艦長は・・・、

アメリカである・・・。

それが・・・、

正しいとか・・・、

間違っているとか・・・、

そんなことはどうでもいら・・・、

と、私は思う・・・。

アメリカも・・・、

多くの国際問題、国内問題を抱えている・・・。

アメリカのやっていること・・・、

そして・・・、

これまでアメリカがやってきたことが・・・、

全て正しいとは思わない・・・。

しかしながら・・・、

それは、どこの国であっても、同じことであると考えて・・・。

そうであるがゆえに・・・、

アメリカは・・・、

宇宙船地球号の・・・、

艦長である・・・。

そう思うのは・・・、

私の気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

大阪太郎・・・。

随分と昔の話ではあるが・・・、

学生時代・・・、

大学に・・・、

「大阪太郎」

と名乗っている・・・？

少なくとも・・・、

そう呼ばれている男がいた・・・。

相当な変わり者で・・・、

ピンク色の・・・、

学ランと、学帽を身にまとっていた・・・。

とはいえ・・・、

単に・・・、

普通の学ランと、学帽を・・・、

ピンク色に塗っていただけであった・・・。

あれは・・・、

ペンキで塗っていたのであろうか・・・？

近くによると・・・、

何か、シンナーのような臭がした・・・。

とにかく、正真正銘の、奇人変人であった・・・。

しかしながら・・・、

皆に愛されていた・・・。

それから・・・、

随分と長い年月が経過したが・・・、

「大阪太郎」は・・・、

今でも元気になっているのであろうか・・・？

そして、何より・・・、

今でも、ピンク色の、学ランと学帽を、身にまとっているものであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

「大阪太郎」のことを・・・。

We Are The World・・・。

高校時代に・・・、

「We Are The World」

が発表された・・・。

英語の先生である・・・、

クラス担任の先生が・・・、

授業の一環として・・・、

LL教室で、見せてくれた・・・。

ビデオだったのか・・・？

それとも・・・、

レーザーディスクであったのか・・・？

それは、記憶にない・・・。

とにかく驚いた・・・。

マイケル・ジャクソン・・・、

シンディ・ローパー・・・、

ブルース・スプリングスティーン・・・、

ステイヴィー・ワンダー・・・、

等等・・・、

アメリカの大スターが、勢揃いして歌っていたのだ・・・。

私は泣きそうになった・・・。

しかしながら・・・、

他のクラスメイトがいたので・・・、

辛うじて、涙をこらえていた・・・。

そして・・・、

次の日・・・、

お小遣いを全部持って・・・、

レコード屋さんへ行って・・・、

「We Are The World」

を買った・・・。

それから、毎日毎日・・・、

泣きながら聴いていた・・・。

ところがある日・・・、

「We Are The World」

が見当たらなかった・・・。

そのかわり・・・、

一世風靡セピアのアルバムがあった・・・。

妹の仕業だな・・・、

私は、直感した・・・。

妹を問い詰めたが・・・、

妹は、知らぬ存ぜぬで押し通した・・・。

そんな・・・、

意味不明な想い出もある名曲である・・・。

あれから・・・、

40年ほどの年月が流れたが・・・、

今では、ネット動画で聴いている・・・。

そして・・・、

今でも泣いてしまう・・・。

特に・・・、

天へと旅だった人たちのパートでは・・・。

そして、私は思う・・・。

「We Are The World」

のような、素晴らしいプロジェクトを成功させることができるのは・・・、

アメリカ以外にない・・・、

と・・・。

アメリカには出来るが・・・、

他の国には出来ないことが・・・、

たくさんある・・・。

他の全ての国が力を合わせても出来ないことが・・・、

アメリカならできる・・・、

そういうことも、たくさんある・・・。

アメリカには・・・、

頑張って欲しい・・・。

宇宙船地球号の艦長として・・・。

そして・・・、

世界を平和にして・・・、

この地球を、より暮らしやすい星にして欲しい・・・。

アメリカならできる・・・。

私はそう信じている・・・。

それは・・・、

私の気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

自分が何をして、何をしなかったか……。

ブツダ様は述べておられる……。

人が何をしたか、よりも……、

自分が何をして、何をしなかったか、ということが大切である……、

……と……。

我々は……、

いや……、

私は……、

ついつい……、

自分のことは棚に上げて……、

他人のことを、心の中で、批判しがちである……。

そういう時に……、

ブツダ様の、この言葉を思い出す……。

人が何をしたか、よりも……、

自分が何をして、何をしなかったか、ということが大切である……。

日々、自らを省みて……、

積善・改過に励みたいものである……。

お客様は神様です・・・？

昔は、言われていた・・・。

お客様は神様です・・・、

・・・と・・・。

しかしながら・・・、

今ではそうではない・・・。

カスタマーハラスメント・・・、

という言葉もあるくらいである・・・。

とはいえ・・・、

私は思う・・・。

お客様は・・・、

家からお金を持ってきて・・・、

お店に商品を買いに来てくださるのである・・・。

端的に言えば・・・、

お客様は・・・、

お店に・・・、

お金を持ってきてくださるのである……。

たえそれが……、

1円であったとしても……。

1円も……、

1億枚集まれば……、

1億円になるのである……。

であるから……、

私は……、

お店にやってきてくださるお客様を……、

神様だと思って……、

丁寧に対応しているつもりである……。

私は、間違っているのでしょうか……？

いや……、

少なくとも私は……、

間違っていないと信じている……。

山中鹿之助・・・。

尼子十勇士の一人・・・、

山中鹿之助は・・・、

月に向かって・・・、

「吾に七難八苦を与え給え。」

と祈ったそうである・・・。

誠に、見上げた根性である・・・。

実際・・・、

尼子家再興のために・・・、

最後の最後まで諦めなかった・・・。

武士の鑑である・・・。

見習いたいものであるなあ・・・。

まあ・・・、

私は・・・、

当然のことながら・・・、

武士ではないのではあるが・・・。

## 団しんやさん・・・。

随分と昔の話ではあるが・・・、

学生時代・・・、

キャンパスで・・・、

団しんやさんを見かけた・・・。

学食であつただろうか・・・？

それはさておき・・・、

それまで・・・、

団しんやさんは・・・、

面白い人、というイメージであつた・・・。

しかしながら・・・、

実物は・・・、

カッコ良かった・・・、

今で言う、イケメンであつた・・・。

それには本当に驚いた・・・。

そして・・・、

一緒に来ていた、石井めぐみさんは・・・、

本当に綺麗な人であった・・・。

あれから・・・、

随分と長い年月が経過した・・・。

団しんやさんと・・・、

石井めぐみさんは・・・、

今でも元気でおられるのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

団しんやさんと・・・、

石井めぐみさんのことを・・・。

好きなものにこそ、節度を・・・。

確か・・・、

安岡先生の著書に書かれてあったと思う・・・。

「・・・好きなものにこそ、節度を設けよ・・・。」

・・・と・・・。

これがなかなか難しい・・・。

酒・・・、

タバコ・・・、

ギャンブル・・・、

そんなものは・・・、

私にはどうでもいいことであるが・・・、

本だけは・・・、

どうしても買いたい・・・。

いや・・・、

買いたかった・・・。

しかしながら・・・、

好きなものにこそ、節度を設けようと思い・・・、

最近、本を買わない・・・。

といっても・・・、

実際には・・・、

本棚が足りなくなっただけのこと・・・、

節度を設けたわけではない・・・。

本当に・・・、

節度を設けるといふことは・・・、

難しいことであるなあ・・・。

## 時計じかけのオレンジ・・・。

スタンリー・キューブリック監督の・・・、

「時計じかけのオレンジ」

・・・を・・・、

学生時代に・・・、

レンタルビデオで観た・・・。

有名な映画だったからだ・・・。

しかしながら・・・、

私は・・・、

途中で気持ち悪くなって・・・、

観るのをやめてしまった・・・。

あまりにも、不気味な映画であった・・・。

後にも先にも・・・、

途中で観るのをやめた映画は・・・、

「時計じかけのオレンジ」

だけである・・・。

それにしても・・・、

本当に不気味な映画であったなあ・・・。

気合・・・。

アニマル浜口さんが・・・、

「気合だー、気合だー・・・。」

と言っておられた・・・。

若い頃は・・・、

ああ、面白い人だなあ・・・、

と思っていた・・・。

しかしながら・・・、

ある夏の日・・・、

図書館に、涼みに行った・・・。

そこで・・・、

アニマル浜口さんの、自伝を読んだ・・・。

そして驚いた・・・。

アニマル浜口さんの、生い立ちや・・・、

娘さんである、浜口京子さんのことが書かれていた・・・。

アニマル浜口さんは・・・、

素晴らしい人だということに気づいた・・・。

それから・・・、

アニマル浜口さんを見る目が変わった・・・。

「気合だー、気合だー・・・。」

落ちう言葉が・・・、

伊達や酔狂ではないことがわかった・・・。

本当に・・・、

気合、というものは、大事である・・・。

あれから随分と長い年月が経過したが・・・、

事あるごとに思い出す・・・。

アニマル浜口さんの・・・、

「気合だー、気合だー・・・。」

という言葉をも．．．。

## 力の出し惜しみをしない．．．。

力の出し惜しみをしていると．．．、

持てる力が、減ってくる．．．。

例へば．．．、

80%のちからしか出さないのでおくと．．．、

その80%の力が、実力になってしまう．．．。

そして．．．、

また、80%の力しか出さないのでおくと．．．、

64%の力が、実力になってしまう．．．。

要するに．．．、

力の出し惜しみをしていると．．．、

少しずつ．．．、

実力が、減ってくることになる．．．。

それとは逆に．．．、

常に、持てる力の100%を出しきっていると・・・、

不思議なことが起こる・・・。

100%が、101%、102%と、少しづつではあるが・・・、

実力が、着実に増えてくる・・・。

拳句の果てには・・・、

200%、300%の力を発揮することができる・・・。

要するに・・・、

実力が、2倍、3倍になってくる・・・。

そして・・・、

逆転現象が起きる・・・。

大変実力がある人でも・・・、

力の出し惜しみをしていると・・・、

実力が減少してくる・・・。

一方・・・、

大した実力がなくとも・・・、

常に、100%の力を出している人は・・・、

実力が、2倍、3倍になってくる・・・。

そうして・・・、

最初は、実力で劣っていた人が・・・、

実力で勝っていた人を・・・、

凌駕することになる・・・。

毎日毎日・・・、

100%の力を出しきって・・・、

生きていきたいものであるなあ・・・。

## 死にゆく者への祈り・・・。

学生時代に観た・・・。

ジャック・ヒギンズ原作・・・、

マイク・ホッジス監督・・・、

ビル・コンティ音楽・・・、

ミッキー・ローク主演・・・。

本当に素晴らしい映画だった・・・。

ミッキー・ロークが・・・、

最もかっこよく描かれている映画であった・・・。

まあ・・・、

IRAのテロリストであるということは・・・、

問題があるのかもしれないが・・・。

ジャック・ヒギンズの原作も読んだが・・・、

素晴らしかった・・・。

ビル・コンティの音楽も素晴らしかった・・・。

共演していた・・・、

リアム・ニーソン・・・、

ボブ・ホスキンス・・・、

サミー・デビス・・・、

アラン・ベイツ・・・、

等・・・、

みな素晴らしかった・・・。

映画のラストで・・・、

ミッキー・ロークが死ぬ寸前に・・・、

「神は、私が何故、信仰を失くしたのか知っているのか・・・？」

というようなセリフを吐いた・・・。

キリスト様の銅像に、しがみついていたが・・・、

落ちて死ぬシーンだったと思う……。

妙に、印象深く残っている……。

物悲しい映画であった……。

しかしながら……、

人間の苦悩を描いた……、

素晴らしい映画であった……。

もう一度観て観たいものであるなあ……。

## 二十歳を過ぎたら皆同じ……？

今となっては……、

随分と昔の話である……。

就職して間もない頃……、

上司から言われた……。

「……二十歳を過ぎたら、皆同じだ。後は、どれだけ仕事ができるかだ。仕事ができる方が偉い。仕事ができる奴のところには、そいつを嫌っている奴も、頭を下げて仕事を頼みに来るんだ……。」

というようなことを言われた……。

その時は……、

その言葉の意味が良くわからなかった・・・。

しかしながら・・・、

時が経つに連れ・・・、

少しずつ・・・、

その意味が分かるようになった・・・。

今となっては・・・、

その、元上司とは、音信不通である・・・。

彼は今でも元気なのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

元上司と・・・、

彼が言った言葉のことを・・・。

水分を摂らなかつた男・・・。

今となっては・・・、

少し昔の話になるが・・・、

工事現場で・・・、

ガードマンのアルバイトをしていた・・・。

ガードマンは・・・、

ただ立っているだけだと思われがちであるが・・・、

実際には・・・、

道行く車の流れを・・・、

止めたり、流したりと・・・、

結構大変であった・・・。

その上・・・、

当然のことではあるが・・・、

夏は暑く・・・、

冬は寒い・・・。

それはおいておくとして・・・、

ある真夏の工事現場での話である・・・。

夏は、当然のことながら、暑いので・・・、

熱中症予防のため・・・、

皆水分を、こまめに摂っていた・・・。

しかしながら・・・、

現場作業員の方の中で・・・、

一人だけ・・・、

ほとんど水分を摂っていない人がいた・・・。

昼休みに・・・、

小さな水筒のお茶を・・・、

少し飲む程度であった・・・。

私は不思議に思っ、聞いてみた・・・。

「・・・それだけで、水分足りるんですか・・・？」

「・・・ああ、これで十分だ・・・。」

そんな感じであった・・・。

その人が熱中症にならないのが、不思議なくらいであった・・・。

それから・・・、

随分と長い年月が経過した・・・。

あの現場作業員の方は、今でもお元気なのであろうか・・・？

そして、熱中症にはならなかったのであろうか・・・？

また、何故、真夏の工事現場で働きながら、水分を余り摂らなかったのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

真夏の工事現場と・・・、

水分を摂らなかった男のことを・・・。

ジェレミー・ブレット・・・。

高校時代・・・、

シャーロック・ホームズシリーズを、よく読んだ・・・。

最も好きな作品は・・・、

「踊る人形」

・・・である・・・。

謎解きというか・・・、

暗号解読の醍醐味があった・・・。

それはさておき・・・、

80年代当時・・・、

グラナダテレビ制作の・・・、

シャーロック・ホームズのドラマが・・・、

NHKで放送されていた・・・。

私はそれを観るのが楽しみであった・・・。

今は亡き・・・、

ジェレミー・ブレットが・・・、

シャーロック・ホームズを演じていた・・・。

ご存じの方も多いと思うのだが・・・、

ジェレミー・ブレットは・・・、

最も、シャーロック・ホームズらしいと言われている・・・。

それには私も同感である・・・。

ワトソン博士を演じていた俳優さんも良かった・・・。

名前は知らないが・・・。

ワトソン博士は・・・、

ただの脇役だと思われがちだが・・・、

彼は・・・、

正義感が強く・・・、

勇敢な男である・・・。

ワトソン博士と、シャーロック・ホームズは・・・、

固い絆で結ばれている・・・。

いま・・・、

あれほどまでに・・・、

信頼しあって・・・、

固い絆で結ばれている友人を持っている人が、どれほどいるのであろうか・・・？

そんなにいるとは思えない・・・。

それにしても・・・、

名作であった・・・。

グラナダテレビ制作の・・・、

シャーロック・ホームズシリーズは・・・。

もう一度・・・、

観てみたいものであるなあ・・・。

## High Noon 真昼の決闘・・・。

高校時代・・・、

担任の先生が・・・、

授業の一環として見せてくれた・・・。

「High Noon」

邦題は・・・、

「真昼の決闘」

・・・である・・・。

ゲーリー・クーパー演じる保安官は・・・、

街の治安を守っていた・・・。

そして・・・、

街の人々からも慕われていた・・・。

しかし・・・、

昔保安官が逮捕した悪漢が・・・、

街に、報復に来るといふ噂が流れた・・・。

保安官は・・・、

街の人々に対し・・・、

共に闘おうと、説得を試みた・・・。

しかしながら・・・、

街の人々は・・・、

報復を畏れて・・・、

保安官には、協力しなかった・・・。

保安官の味方は・・・、

恋人と・・・、

保安官助手の二人だけだった・・・。

とうとう・・・、

悪漢が街にやって来た・・・。

街の人々は・・・、

家に閉じこもっていた・・・。

保安官を始めとする3人は・・・、

大勢の悪漢と・・・、

勇敢に闘った・・・。

そして・・・、

悪漢共を退治した・・・。

すると・・・、

街の人々が集まってきて・・・、

「・・・いやあ・・・、あんたはやっぱり保安官だ・・・。これからもこの街を護ってくれ・・・。」

というような・・・、

身勝手なことを、恥ずかしげも無く言った・・・。

ゲーリー・クーパー演じる保安官は・・・、

馬車に乗って・・・、

無言で、去って行った・・・。

高校時代に観た時・・・、

何とも言えない感じだった・・・。

一般大衆は・・・、

何とも身勝手極まりない・・・、

そう思った・・・。

その思いは・・・、

今でも変わっていない・・・。

現代日本でも・・・、

それと同じようなことが起きているのではあるまいか・・・？

そう思うのは・・・、

私の気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

鬼婆・・・？

随分と昔の話になるが・・・、

就職して間もない頃・・・、

深夜映画を見ていた・・・。

それは・・・、

乙羽信子さん演じる老女が・・・、

夜な夜な・・・、

落ち武者狩りをしている映画だった・・・。

佐藤慶さんが・・・、

落ち武者を演じていたように思う・・・。

不気味で・・・、

何とも不思議な映画だった・・・。

次の月曜日・・・、

上司にそのことを話した・・・。

「・・・ああ・・・、それは、新藤兼人監督の、鬼婆だよ・・・。」

と教えてくれた・・・。

疑問は解決したが・・・、

ますます、謎は深まった感じがした・・・。

老女が・・・、

落ち武者狩りをするとは・・・、

何とも凄いことである・・・。

まあ・・・、

死んだ私の婆さんだったら・・・、

それくらいのことほしたのかもしれないが・・・。

時々思い出す・・・、

「鬼婆」

のことを・・・。

## ミニコミ紙の男・・・。

学生時代・・・、

ゼミに・・・、

一人の友人がいた・・・。

彼はいいやつだったが・・・、

吃音があった・・・。

そのためか・・・、

就職はしなかった・・・。

聞いたところでは・・・、

ミニコミ紙に・・・、

映画のコラムを書いているとのことであった・・・。

それで生活できるのだろうか・・・？

私は疑問であった・・・。

それから随分と長い年月が過ぎ去った・・・。

彼は今でも元気であるのだろうか・・・？

そしてなにより・・・、

いまでも・・・、

ミニコミ紙に・・・、

映画のコラムを書いているのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

ミニコミ紙の男のことを・・・。

## ベルリン天使の詩・・・。

学生時代・・・、

ヴィム・ヴェンダース監督の・・・、

「ベルリン天使の詩」

を観た・・・。

ブルーノ・ガンツらが演じる天使から見た・・・、

人間社会が描かれていた・・・。

不思議で・・・、

興味深い作品であった・・・。

当時・・・、

ヴェンダース監督が・・・、

一躍脚光を浴びていた頃である・・・。

彼は、親日家で・・・、

今は亡き名優、笠智衆さんの、熱烈なファンであった・・・。

日本でも特に人気が出始めた・・・。

「アメリカの友人」

「パリ・テキサス」

等・・・、

名作が多い・・・。

もう随分と・・・、

ヴェンダース監督の作品を観ていない・・・。

また観てみたいものであるなあ・・・。

## エル・トポ・・・。

今となっては昔の話ではあるが・・・、

学生時代・・・、

「エル・トポ」

を観た・・・。

アレハンドロ・ホドロフスキー監督の作品である・・・。

意味がよくわからない上に・・・、

不気味な映画であった・・・。

「ホーリー・マウンテン」

「サンタ・サングレ」

なども・・・、

不気味な作品であった・・・。

ホドロフスキー監督は・・・、

確か・・・、

チリの人であったと記憶している・・・。

間違っているかもしれない・・・。

ホドロフスキー監督って・・・、

一体どんな人だったのであろうか・・・？

そして・・・、

今でもお元気なのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

「エル・トポ」

と・・・、

アレハンドロ・ホドロフスキー監督のことを・・・。

## ニュー・シネマ・パラダイス・・・。

今となっては・・・、

随分と昔の話である・・・。

大学卒業間際に・・・、

銀座の映画館で観た・・・。

最初は、単館上映であった・・・。

ジュザッペ・トルナトーレ監督・・・、

フィリップ・ノアレ・・・、

ジャック・ペラン出演・・・、

エンニオ・モリコーネ音楽・・・。

何とも素晴らしい映画であった・・・、

「ニュー・シネマ・パラダイス」

最初は期待していなかったが・・・、

見ている内に引きこまれて・・・、

ラストシーンでは・・・、

号泣してしまった・・・。

周りの観客も、泣いていた・・・。

私の後ろに座っていたサラリーマンのおっさんも、号泣していた・・・。

思い出深い映画である・・・。

ところが・・・、

である・・・。

サークルの飲み会で・・・、

「ニュー・シネマ・パラダイス」

の話で盛り上がっていたのであるが・・・、

東京育ちのお嬢様であった友人女性は・・・、

「・・・あの映画の、どこが面白かったの・・・？」

と曰った・・・。

私を含め・・・、

男どもは驚いて・・・、

黙りこんだ・・・。

生育環境の違いは・・・、

人の感性をも変えてしまうものなのであるなあ・・・。

と思った・・・。

私は・・・、

レーザーディスクまで買って・・・、

アパートで何回も観た・・・。

しかしながら・・・、

ディレクターズカットの完全版を見なかったのは残念である・・・。

それにしても面白い映画であった・・・。

そして・・・、

随分と長い年月が流れたある日・・・、

ネットで・・・、

「ニュー・シネマ・パラダイス」

を観た・・・。

すると・・・、

驚くべきことに・・・、

あまり面白いとは思えなかった・・・。

時の流れというものは・・・、

人の感性までも、変えてしまうものなのであろうか・・・？

なんとなく・・・、

サークルの友人女性が・・・、

「・・・あの映画の、どこが面白かったの・・・？」

と言った気持ちに分かる気がした・・・。

何とも不思議なものであるなあ・・・。

## スカイラインの女性・・・。

今となっては・・・、

昔の話である・・・。

就職して・・・、

最初の部署に・・・、

ある女性の先輩がいた・・・。

他の女性のベテランは・・・、

意地悪な人が多かったのであるが・・・、

その女性の先輩は・・・、

優しく、素敵な人であった・・・。

そして彼女は・・・、

スカイラインを乗り回していた・・・。

GTRではなかったが・・・、

かっこいいなあ・・・、

・・・と・・・、

密かに思っていた・・・。

私は暫くして・・・、

その職場を去った・・・。

やめた後・・・、

彼女は・・・、

ネクタイをプレゼントしてくれた・・・。

それから随分と長い年月が過ぎ去った・・・。

彼女は今でも元気なのであろうか・・・？

そして今でも・・・、

スカイラインに乗っているのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

スカイラインを乗り回していた女性の先輩のことを・・・。

ちなみに・・・、

彼女からもらったネクタイは・・・、

今でも大切にしている・・・。

本当に優しい女性であった・・・。

心頭滅却すれば火もまた涼し・・・。

織田の焼き討ちの際・・・、

快川禅師は・・・、

「心頭滅却すれば火もまた涼し・・・。」

・・・と・・・、

豪語したらしい・・・。

しかし・・・、

結局・・・、

焼け死んだらしい・・・。

しかしながら・・・、

見上げた根性であるなあ・・・。

### 三界唯心・・・。

夕方・・・、

失敗した・・・。

大切なお米を運んでいたら・・・、

入れ物が割れて・・・、

お米が散らばってしまった・・・。

理由はわかっている・・・、

親に、頭ごなしに言われたので・・・、

イライラしながらやったからだ・・・。

正しく・・・、

三界は唯心の所現である・・・。

明日・・・、

大切なお米を拾い集めて・・・、

食べられるようにしよう・・・。

誠に誠に・・・、

三界は唯心の所現であるなあ・・・。

## 真夏のゴミ山・・・。

今となつては昔の話である・・・。

若い頃・・・、

真夏に・・・、

産廃業者のアルバイトをした・・・。

ゴミの山から・・・、

パイプを拾って・・・、

頭陀袋に集めるバイトをした・・・。

ゴミ山の中から・・・、

パイプを集めるのは・・・、

途方もない仕事だった・・・。

私は・・・、

一日でやめた・・・。

あれから随分と長い年月が経過した・・・。

暑くなると思い出す・・・。

ゴミ山でのバイトのことを・・・。

## カクテル・・・。

学生時代・・・、

大学の近くの映画館で・・・、

「カクテル」

を観た・・・。

映画そのものは・・・、

あまり面白くはなかった・・・。

ただ・・・、

トム・クルーズはカッコ良かった・・・。

そして何より・・・、

ビーチボーイズの・・・、

「ココモ」

は良かった・・・。

私は・・・、

「スタイル・クルージン」

を・・・、

衝動買いしてしまった・・・。

評価は分かれているようであるが・・・、

私は・・・、

名曲揃いであると思う・・・。

それにしても・・・、

あのCD・・・、

どこに行ったのでしょうか・・・？

ロシアとウクライナ・・・。

ロシアとウクライナが戦争をはじめて・・・、

数年が経過した・・・。

泥沼の様相を呈している・・・。

何故そんなことになったのであろうか・・・？

私にはわからない・・・。

しかしながら・・・、

そんなことはどうでもいい・・・。

兎に角、平和を回復することである・・・。

それには・・・、

アメリカの力が必要であると、私は考える・・・。

アメリカ以外にない・・・。

トランプ大統領ならば・・・、

ロシアとウクライナの戦争を終結することができる・・・。

宇宙船地球号の艦長である、アメリカの・・・、

強いリーダーなのだから・・・。

私はトランプ大統領を信じている・・・。

そして・・・、

アメリカを信じている・・・。

正しいとか間違っているとか言う奴は・・・、

愚か者である・・・。

というよりも・・・、

ただの馬鹿である・・・。

私は信じている・・・、

アメリカと・・・、

トランプ大統領を・・・。

## スナックバー・ブタペスト・・・。

今となつては昔の話である・・・。

学生時代・・・、

レンタルビデオで・・・、

「スナックバー・ブタペスト」

という映画を観た・・・。

何となく観たので・・・、

詳しいことは憶えていない・・・。

ジャンカルロ・ジャンニーニ演ずる、落ちぶれた老弁護士が・・・、

若いギャングと・・・、

最後の戦いに挑む・・・、

というような感じだったと思う・・・。

ラストシーンすら忘れた・・・。

ただ・・・、

ジャンカルロ・ジャンニーニは・・・、

ただひたすら・・・、

カッコ良かった・・・。

時々思い出す・・・、

「スナックバー・ブタペスト」

・・・と・・・、

ジャンカルロ・ジャンニーニのことを・・・。

ピーター・グリーンナウェイ・・・。

学生時代・・・、

ピーター・グリーンナウェイ監督の映画にはまっていた時期があった・・・。

「コックと料理長、その妻と愛人」

を・・・、

たまたま、レンタルビデオで観たことがきっかけであった・・・。

「英国式庭園殺人事件」

「数に溺れて」

なども観た・・・。

印象深いのは・・・、

「数に溺れて」

である・・・。

意味がよくわからない映画ではあったが・・・、

ラストシーンがすごかった・・・。

数字にこだわっていた男・・・、

数学者だったのか・・・？

それは忘れた・・・。

ただその男が・・・、

湖に浮かぶボートから・・・、

数人の女性に・・・、

湖の中に、突き落とされて・・・、

死んでしまう・・・、

というような感じだったと思う・・・。

何とも不思議な映画であった・・・。

また・・・、

ピーター・グリーンナウエイ監督の作品を観たいものである・・・。

## デリカテッセン・・・。

今となつては昔の話である・・・。

学生時代に・・・、

「デリカテッセン」

という映画を観た・・・。

映画館で観たのか・・・？

レンタルビデオで観たのか・・・？

それすら忘れてしまった・・・。

内容もよく憶えていないが・・・、

デリカテッセンという・・・、

食堂のようなものがあって・・・、

その地下に・・・、

防毒マスクを身に着けた・・・、

地底人が住んでいた・・・。

そして・・・、

地上の人々と闘う・・・、

といった感じだったと思う・・・。

意味不明で・・・、

ゴチャゴチャした映画であったが・・・、

私には、そこが面白かった・・・。

もう一度、観てみたいものであるなあ・・・、

「デリカテッセン」

・・・。

## 左翼思想と唯物論・・・。

谷口雅春先生も述べておられたと思うが・・・、

左翼思想も・・・、

唯物論も・・・、

間違っている・・・。

自己撞着に陥るのである・・・。

谷口雅春先生によれば・・・、

左翼思想をいただいていると・・・、

胸を病んでしまう・・・、

とのことである・・・。

そして・・・、

唯神論を唱えておられたと思う・・・。

いずれにせよ・・・、

左翼思想も・・・、

唯物論も・・・、

間違っていると思う・・・。

私は馬鹿だから・・・、

理論的なことはわからないが・・・、

とにかく、間違いだと思う・・・。

私は・・・、

最初の職場で・・・、

労働組合に苦しめられた・・・。

課長や・・・、

課長補佐クラスの方々も・・・、

随分と苦しめられていた・・・。

であるから・・・、

私は・・・、

労働組合は嫌いである・・・。

左翼思想や・・・、

唯物論が嫌いなもの・・・、

そのためかもしれない・・・。

しかしながら・・・、

今さら、そんなことはどうでもいら・・・。

とにかく・・・、

左翼思想も・・・、

唯物論も・・・、

労働組合も・・・、

間違っている・・・。

そう思うのは・・・、

私だけであろうか・・・？

それならそれでいい・・・。

## シザーハンズ・・・。

学生時代・・・、

「シザーハンズ」

を観た・・・。

それが・・・、

ジョニー・デップとの出会いであった・・・。

たまたま観たのであるが・・・、

感動的な映画であった・・・。

ストーリーが進むに連れ・・・、

感動的になった・・・。

シザーハンズが・・・、

氷の彫刻をすると・・・、

氷のかけらが・・・、

雪のように舞い上がり・・・、

舞い落ちた・・・。

その、雪のような氷が降る中で・・・、

ヒロインが、ダンスをしていた・・・。

そのシーンでは・・・、

不覚にも・・・、

号泣してしまった・・・。

そして・・・、

ラストは・・・、

物悲しかった・・・。

思い出深い映画である・・・。

「シザーハンズ」

・・・。

クライ・ベイビー……。

「シザーハンズ」

を観た後……、

「クライ・ベイビー」

を観た……。

ジョン・ウォーターズ監督だったわけ……？

忘れた……。

ジョニー・デップが主演だったので観たが……、

意味不明な映画だった……。

ジョン・ウォーターズ監督だったとすれば……、

当然のことではあるが……。

何となく……、

もう一度観てみたい映画である……、

「クライ・ベイビー」

……、

私には……、

意味不明な映画ではあるが・・・。

## キューブリック・・・。

学生時代・・・、

キューブリック監督の映画を・・・、

少しは観た・・・。

「2001年宇宙の旅」

「フルメタルジャケット」

「時計じかけのオレンジ」

等等・・・。

「フルメタルジャケット」

は・・・、

意味が良くわからなかった・・・。

「時計じかけのオレンジ」は・・・、

気持ち悪くなって・・・、

途中で観るのをやめた・・・。

「2001年宇宙の旅」

は・・・、

名作だと思う・・・。

宇宙の神秘・・・、

生命の起源・・・、

そんなことを感じた・・・。

キューブリック監督は・・・、

最も真理に近づいた一人だったのではあるまいか・・・？

## タルコフスキー・・・。

若い頃・・・、

タルコフスキー監督の映画を・・・、

少しは観た・・・。

「惑星ソラリス」

「ストーリーカー」

「ノスタルジア」

「サクリファイス」

・・・など・・・。

一番思い出深いのは・・・、

「惑星ソラリス」

である・・・。

言葉には出来ない名作であった・・・。

「ストーカー」

は・・・、

ずっと観たいと思っていたのだが・・・、

なかなか・・・、

レンタルビデオ屋になかった・・・。

就職してから・・・、

神楽坂のレンタルビデオ屋で・・・、

とうとう発見して・・・、

速攻で借りて・・・、

観た・・・。

難解な映画だった・・・。

そこで・・・、

ハヤカワSF文庫の・・・、

「ストーリーカー」

を買って読んだ・・・。

オリジナルのタイトルは・・・、

確か・・・、

「路傍のピクニック」

であったと思う・・・。

読んでみたが・・・、

さっぱり理解できなかった・・・。

それにしても・・・、

昔観た映画というものは・・・、

思い出深いものであるなあ・・・。

トヨタからの手紙・・・。

10年以上前・・・、

トヨタ本社に・・・、

勝手に・・・、

手紙を送った・・・。

「わが青春のスターレット」

という、出鱈目な文章であった・・・。

全く相手にされないであろう・・・、

そう、私は思っていた・・・。

しかしながら・・・、

暫くして・・・、

な・・・、

なんと・・・、

返事が来た・・・。

読んでみて驚いた・・・。

私が書いた駄文を・・・、

しっかりと読んでくださった・・・。

さすがは、世界のトヨタだ・・・、

そう思った・・・。

これからも・・・、

トヨタの車に・・・、

乗り続けよう・・・。

カイル・マクラクラン・・・。

若い頃・・・、

カイル・マクラクランのファンだった・・・。

「砂の惑星」

「ブルー・ベルベット」

「ツウイン・ピークス」

等・・・、

色々観た・・・。

とにかく・・・、

端正な顔立ちで・・・、

カッコ良かった・・・。

また・・・、

カイル・マクラクランの映画を・・・、

観てみたいものであるなあ・・・。

## チェビー・チェイス・・・。

今となつては昔の話ではあるが・・・、

学生時代・・・、

ハリウッドの・・・、

コメディ映画をよく観た・・・。

最も好きだったコメディ俳優は・・・、

チェビー・チェイスだった・・・。

「昔みたいに」

「サボテンブラザーズ」

「ホリデーロード4000キロ」

など・・・、

よく観たものである・・・。

80年代のコメディ映画は・・・、

本当に面白かった・・・。

悩みなど・・・、

吹き飛んでしまっていた・・・。

また観てみたいものであるなあ・・・。

## マネキン・・・。

アンドリュー・マッカーシーが主演であっただろうか・・・？

学生時代に観た映画・・・、

「マネキン」

・・・。

主人公が・・・、

マネキンに恋をした・・・。

すると・・・、

な・・・、

なんと・・・、

二人だけになると・・・、

マネキンが・・・、

人間の女性になった・・・。

二人は・・・、

本当に愛し合っていた・・・。

ラストシーンは・・・、

感動的であった・・・。

私のように・・・、

もてない男にとっては・・・、

夢と希望を与えてくれる・・・、

素晴らしい・・・、

ロマンティック・コメディであった・・・。

また観てみたいなあ・・・。

## ボディーガード・・・。

就職して間もなく・・・、

学生時代の友人と・・・、

映画を観に行った・・・。

当時、世界中で大ヒットしていた映画・・・、

「ボディーガード」

・・・を・・・。

ケビン・コスナーが主演で・・・、

ヒロインが・・・、

今は亡き歌姫・・・、

ホイットニー・ヒューストンだった・・・。

本当に素晴らしい作品であった・・・。

ケビン・コスナーは・・・、

やはりカッコよく・・・、

ホイットニー・ヒューストンは・・・、

美しかった・・・。

作品そのもの・・・、

ストーリー展開も素晴らしく・・・、

ラストシーンでは・・・、

泣いてしまった・・・。

そして・・・、

である・・・、

映画館を出ようとする・・・、

周りは・・・、

恋人同士と思われる・・・、

カップルだらけであった・・・。

一方我々は・・・、

男二人であった・・・。

今では・・・、

それもありなのかもしれないが・・・、

昭和から平成になったばかりの頃である・・・。

それに我々は・・・、

友人同士であって・・・、

恋人同士ではなかったことは、言うまでもない・・・。

兎に角恥ずかしかった・・・。

二人で・・・、

足早に立ち去った・・・。

そんな、出鱈目な想い出のある映画である・・・。

しかしながら・・・、

「ボディガード」

が名作であることに変わりはない・・・。

でも・・・、

よく考えると・・・、

何で、男二人で行ったのであろうか・・・？

今となつては謎である……。

謎は謎のままがいい……。

ところであいつは……、

二人で……、

「ボディーガード」

を觀に行ったことを……、

憶えているのであろうか……？

ああ……、

お願いだから、忘れていてくれ……。

アレックス・コックス……。

今となつては昔の話ではあるが……、

学生時代……、

アレックス・コックス監督の映画にはまっていた時期があった……。

とはいえ……、

「ストレイト・トゥ・ヘル」

と・・・、

「ウォーカー」

の2作品しか観ていない・・・。

「シド・アンド・ナンシー」

が・・・、

一番有名だと思うのだが・・・、

観なかった・・・。

「ストレイト・トゥ・ヘル」

は・・・、

意味がよくわからない・・・、

異様な作品であった・・・。

「ウォーカー」

は・・・、

確か・・・、

アメリカの・・・、

昔の戦争・・・？

が舞台であったと思うが・・・、

もう忘れた・・・。

ただ・・・、

主演が、エド・ハリスで・・・、

異様な雰囲気を漂わせていたことは・・・、

今でも憶えている・・・。

とにかく・・・、

異様な映画であったことは間違いない・・・。

今度は・・・、

「シド・アンド・ナンシー」

を・・・、

観てみたいものであるなあ・・・。

## 団子・・・。

数年前に・・・、

安岡先生の著書を読んだ・・・。

そこに・・・、

こんな話があった・・・。

昔・・・、

中国で・・・、

茶店を営んでいる老婆がいた・・・。

その老婆は・・・、

店を訪れる人に・・・、

無料で・・・、

お団子を食べさせていた・・・。

それを観ていた仙人が・・・、

その老婆の行いが・・・、

真に、真心からいであたものであるかを試みるために・・・、

三年の間通ったそうだ・・・。

そして・・・、

その老婆は・・・、

真に、真心から、お団子を食べさせている・・・、

ということが・・・、

仙人にわかった・・・。

そこで、仙人は、その老婆を褒め称えた・・・。

そして・・・、

あなたが亡くなったら・・・、

どこそこに葬ってもらいなさい・・・、

そうすれば、あなたの子孫は大いに栄えるでしょう・・・、

と、述べ伝えた・・・。

そして・・・、

その老婆が亡くなった後・・・、

仙人に言われたとおりの場所に葬ってもらったそうである・・・。

そして・・・、

子孫は・・・、

仙人の言ったとおり・・・、

進士の試験に合格するなどして・・・、

大いに栄えたということである・・・。

積善の家に、必ず余慶在り・・・、

とは・・・、

本当のことなのであるなあ・・・。

## ビッグ・・・。

今となつては昔の話であるが・・・、

学生時代・・・、

「ビッグ」

を観た・・・。

少年が・・・、

魔法で・・・、

大人になつて・・・、

企業で活躍する・・・、

というような感じの映画であつた・・・。

本当に名作であつた・・・。

ミヒヤエル・エンデの・・・、

「大人になつても、少年の心を忘れない人は素晴らしい。」

という言葉が・・・、

再認識した・・・。

そして何より・・・、

主演の・・・、

トム・ハンクスが良かった・・・。

当時・・・、

「トム・ハンクスは、ビッグの主人公を演じるために生まれてきた。」

とさえ言われていた・・・。

この、「ビッグ」で・・・、

トム・ハンクスは・・・、

名実ともに・・・、

ハリウッドの大スターとなった・・・。

その後も・・・、

「プライベートライアン」

「フォレストガンプ」

等等・・・、

多数の名作の主演を務めた・・・。

しかしながら・・・、

私にとって・・・、

トム・ハンクスといえば・・・、

やはり・・・、

「ビッグ」

である……。

そう思うのは……、

私だけであろうか……？

いや……、

そんなことはあるまい……。

はだしのゲン……。

私が子供の頃は……、

学校から……、

「はだしのゲン」

を観るように勧められていた……。

実際……、

私も観に行ったし……、

学校の体育館でも……、

夏になると……、

毎年のように上映されていた……。

「はだしのゲン」

は・・・、

子供の頃の私にとっては・・・、

恐ろしい映画であった・・・。

原爆投下後の・・・、

惨状が描かれていたからである・・・。

この映画で・・・、

原爆や・・・、

戦争の恐ろしさを知った・・・。

修学旅行では・・・、

長崎の原爆資料館を見学した・・・。

そして・・・、

父親が・・・、

私と妹を・・・、

広島に・・・、

平和公園へと連れて行ってくれた・・・。

平和の尊さど・・・、

原爆・・・、

戦争の恐ろしさを感じたものである……。

最近では……、

「はだしのゲン」

は……、

子供さんに見せるのは……、

不適切である……、

というような意見が在り……、

今では……、

子供さんは……、

「はだしのゲン」

を……、

観ていないのかもしれない……。

しかしながら……、

私は思う……。

歴史上……、

世界で唯一の被爆国である日本であるからこそ……、

未来の……、

これからの……、

日本を・・・、

世界を担っていく子供さんには・・・、

ぜひ見ていただきたいと思う・・・。

そう思うのは・・・、

間違っているのでしょうか・・・？

私にはそうは思えない・・・。

7月4日に生まれて・・・。

別に・・・、

私の誕生日ではない・・・。

学生時代に観た・・・、

映画のタイトルである・・・。

7月4日は・・・、

アメリカ独立記念日だったっけ・・・？

それは忘れた・・・。

「7月4日に生まれて」

とは・・・、

あのトム・クルーズ主演の映画である・・・。

結構昔の映画なので・・・、

詳しいことは忘れた・・・。

ただ・・・、

トム・クルーズ演じる主人公は・・・、

戦争の後遺症で・・・、

車椅子生活を送っていた・・・。

ベトナム戦争に従軍したという設定だったかな・・・？

それは忘れたが・・・、

とにかく・・・、

車椅子生活を送っていた・・・。

それで・・・、

主人公は・・・、

少し心がひねくれていた・・・。

それで・・・、

両親や友人から・・・、

優しくも厳しく支えられて・・・、

立ち直っていくというストーリーだったと思う……。

まあ……、

間違っているかもしれない……。

華やかな映画ではなかったが……、

感動的な名作であった……。

そして……、

同時期に……、

ダニエル・デイ・ルイス主演の……、

「マイ・レフトフット」

が公開されたので……、

比較されたりもした……、

……ような記憶がある……。

確か……、

「マイ・レフトフット」

が……、

アカデミー賞を受賞したように記憶している……。

違っているかもしれない……。

兎に角……、

両作とも・・・、

感動的な名作であった・・・。

ただ・・・、

私の記憶に間違いがなければの話ではあるが・・・、

「マイ・レフトフット」

で主演を務めた・・・、

ダニエル・デイ・ルイスは・・・、

オーバーアクトである・・・、

というような・・・、

批判のようなものもあった・・・。

しかしながら・・・、

私も・・・、

「マイ・レフトフット」

を観たが・・・、

あれはあれで・・・、

絶妙な演技であると思った・・・。

そろそろ・・・、

若い頃に観た名作映画を・・・、

また観てみたいものであるなあ・・・。

---

こころの雑記帳

---

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---